2021 春号

千の声 VOICE NO.12

福岡ハカセの本の旅～光と冒険～

「生命とは何か」を美しい言葉で伝え続ける生物学者・福岡伸一。自然科学はもちろん、文芸、建築、美術、絵本など、あらゆるジャンルの本を精読してきた結果に現在の福岡ハカセがある。昆虫少年だった博士は、図鑑から本の旅をはじめます。昆虫を顕微鏡で観察しているときに、顕微鏡を初めて作ったアントニ・ファン・レーウェンフックにたどり着きます。そこから、同時期に同じ場所で生まれたヨハネス・フェルメールへと旅路は続き、のちにフェルメールオタクとなるのです。一方、生物学者への旅路がはっきりとするのは『ドリトル先生航海記』(ヒュー・ロフティング/新潮文庫)から。スタビンズ君に憧れた福岡ハカセは、進化論から遺伝子・生命科学へと冒険していきます。さあ、『福岡ハカセの本棚』を出発点に、石川塾長の点から点への本の旅～光と冒険～へ出発です。

●福岡伸一 『福岡ハカセの本棚』 メディアファクトリー新書

読むべき本とは、野山のひらひらと舞う蝶のようにいつも「動いている本」です。その本を書いた人の切実な思い、気づきの感動、言葉を探すことの苦しみと喜び。そんな動的なものに満ちた本は、人をも動かすに違いありません。揺れながら、光を反射しつつ、くるくると回転し続ける、生きた本。自分の人生を振り返りながら、私はここにそんな本だけを集めてみたのです。([おわりに]「地図なき世界にこそ、面白さがある」 P215 より)

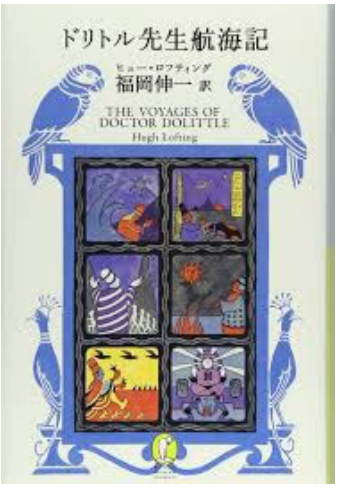
目次

[はじめに]「それは図鑑から始まった」 11
第 1 章 自分の地図をつくる
—マップラバーの誕生— 17
世界を鳥瞰する視線 18
アザラシと一緒に五大湖を旅する 22
「どうぶつ島のちず」という地図 25
冒険、冒険、また冒険 27
航海、そしてドリトル先生のフェアネス 29
スタビンズ君になるために 32
若きダーウィンの自然観察旅行 36
第 2 章 世界をグリッドでとらえる 41
不思議さに目を見はる感性 42
凍てつくトンボの美しさ 46
「渦巻き」という意匠 49
完成させない思想 53
ダ・ヴィンチの意外な人生 57
「かたち」を貫く共通原理 59
美は「グリッドな世界」にあり 63
幾何学模様の音楽 66
顕微鏡オタクだった「微生物学の父」 69
その画家は誰か？ 72
「消えたフェルメール」の行方 75
「フェルメールの部屋」を再現する 78
第 3 章 生き物としての建築 83
「新陳代謝する建築」というコンセプト 84
脊椎動物のような「東京計画 1960」 88
「負ける建築」の親和性 91
「有機的な建築」とは何か 94
「二つの塔」が示す世界のバランス 96
第 4 章 「進化」のものがたり 101
いまこの瞬間までつながる生命 102
進化のメカニズムを語る 104
キリンの首はなぜ長い 106
一寸の虫にも五分の魂 109
研ぎ澄まされた進化論 112
虹を解体してわかること 115
世界を神なしで説明する 118
ファーブルの進化論批判 121
目はなぜ淘汰されないか 124
「過剰さを用意する」という戦略 126
「遺伝子の外側」にあるもの 129
生命を見る柔らかな視線 131
豊かさは「ムダ」にある 134
第 5 章 科学者たちの冒険 139
「二重らせん」を巡って 140
「遺伝子」の寡黙な発見者 145
なぜ発見を「しなかった」のか 147
360 年後の証明 150
100 万ドルを断った天才 153
神々の愛でし人 156
栄光の裏の「ポスドク哀史」 159
第 6 章 「物語」の構造を楽しむ 163
SF の名作に見る「お国柄」 164
復讐劇の「大伽藍構造」
科学少年をノックアウトする小説 168
思いどおりにはいかない SF 171
「昭和の地図」を読む 176
同時代作家のメタファー 179
幾何学の美をもつ文体 182
第 7 章 生命をとらえ直す 185
遺伝子ハンティングの時代 186
なければないなりに変容する 188
生命とは秩序を保つものである 190
生命を成り立たせる「関係性」 193
ホタルはなぜいっせいに光るのか 195
食も環境も動的平衡である 198
第 8 章 地図を捨てる
—マップヘイターへの転身— 201
記憶をつなぎ止めるもの 202
死に対するある勝利 204
「わたくし」はどこにあるのか 206
溶けていく日常 209
ゆるく巻くかたつむりの殻 211
[おわりに]「地図なき世界にこそ、面白さがある」 215

航海、そしてドリトル先生のフェアネス 29

『ドリトル先生航海記』は、ドリトル先生がシギ丸という船に乗って、行方不明になったインディアンの博物学者、ロング・アローを探しに行く話です。同行者はスタビンズ少年の他、ドリトル先生がアフリカで知り合った黒人の国の王子バンポ、オウムのポリネシア、サルのチーチー、犬のジップ。シギ丸はパドルビーを出航し、ロング・アローが消息を絶ったブラジル近海のクモサル島へと向かいます。なんとかクモサル島にたどり着いたドリトル先生は、ジャビズリーという珍しいカブトムシに導かれ、崩落で閉じ込められた洞窟からロング・アローを助け出します。

●ヒュー・ロフティング/福岡伸一 訳『ドリトル先生航海記』新潮文庫



目次

プロローグ 13

第一部
1 靴職人の息子 15
2 偉大な博物学者の噂を耳にする 20
3 ドリトル先生の家 29
4 イフ・ワフ 38
5 ポリネシア 48
6 怪我をしたリス 60
7 貝のことば 65
8 何にでもよく気がつきますか？ 70
9 夢の庭 76
10 ドリトル先生の動物園 81
11 私の先生ポリネシア 86
12 最高の思いつき 92
13 旅人あらわる 97
14 チーチーの船旅 102
15 ドリトル先生の助手になる 106

第二部
1 カーリュー号の乗組員 112
2 世捨て人のルカ 116
3 ジップと秘密 121
4 ボブ 126
5 メンドーサ 133
6 裁判長の犬 140
7 謎がとけた 146
8 万歳三唱 151
9 ムラサキゴクラクチョウ 156
10 ゴールデン・アローの息子ロング・アロー 160
11 目隠し旅行 166
12 運命と旅の行先 173

第三部
1 第三の男 178
2 いってきます！ 186
3 問題発生 190
4 やっかいごとは続く 196
5 ポリネシアの妙案 204
6 モンテヴェルデの寝台屋 210
7 ドリトル先生の賭け 215
8 前代未聞の闘牛 223
9 いそいで出発だ 234

第四部
1 再び貝のことば 241
2 シルバーフィジットの話 249
3 悪天候 268
4 遭難！ 273
5 島だ！ 283
6 ジャビズリー・カブトムシ 289
7 タカの頭の形をした山 296

第五部
1 歴史的瞬間 308
2 “動く大地の民” 318
3 火 322
4 なぜ島は浮いているのか 328
5 戦いだ！ 333
6 将軍ポリネシア 341
7 オウム平和条約 346
8 ぐらぐら岩 351
9 選挙 360
10 ジョング王の戴冠式 370

第六部
1 新生ポプシペテル 377
2 懐かしい故郷 387
3 ロング・アローの博物学 394
4 大ウミヘビ 398
5 ついに貝のことばの謎が解ける 408
6 最後の閣議 415
7 ドリトル先生の決断 419

訳者あとがき—do little and think a lot

ゴールデン・アローの息子ロング・アロー 160

「私の手紙を渡したとき、ロング・アローはなんと言っていたんだ？」
　ムラサキゴクラクチョウは頭を下げました。
「もしかしたら、私はここに来ないほうがよかったのかもしれません。先生の手紙を届けられなかったのですから。ロング・アローは行方不明になってしまったのです！」
「だが、教えてくれ、ロング・アローの姿が最後にどこで見かけられたかはわかったんだろう？」
「ええ。若いアホウドリの話では、クモサル島でみたということでした」
「どうやら、ロング・アローはその島だけに住むインディアンの部族を訪ねに行ったようで、最後に目撃されたのは、めずらしい薬草を採りに山に入っていった姿でした。」

ジャビズリー・カブトムシ 289

「しっ、静かに！ジャビズリー・カブトムシだ！聞こえるだろう？」
「どこにいるのだろう？音からして、近くにいるはずなんだが。おお、あれだ！飛んできたぞ！」
　帽子を脱いで網代りにすると、シャシャッと振りまわして、カブトムシを捕まえました。
「おや？ジャビズリー・カブトムシの脚に何かついているぞ。」カブトムシの右の前脚の真ん中へんに、薄い枯葉のようなものが巻きついています。枯葉は強いクモの糸でしっかり結ばれていました。枯葉を広げて平らにして、それを見つめました。
「手紙だよ」とドリトル先生は言いました。
「ロング・アローだ!」ドリトル先生は大きな声で言いました。
「スタビンズくん、この手紙はロング・アローとその仲間の、助けを求める最後の叫びなんだよ」

タカの頭の形をした山 296

「おい、みてくれ！」
そのカブトムシは、確固たる目的を持った歩き方で山を登りはじめていました。
　みんなでカブトムシを見つめていたのに、カブトムシが岩肌に吸い込まれて消えてしまったのです。
「ついに見つけたわよ。あのカブトムシの巣穴はここなのよ」
「この巨大な平たい岩が、洞くつの口を扉のようにふさいでしまったのか」
　渾身の力で岩を叩きました。音に応じて、岩を叩く音が山の中から三回聞こえてきたのです。

歴史的瞬間 308

「気をつけろ！」ドリトル先生が叫びました。「岩が滑り落ちるぞ！それ、逃げろ！」
「ロング・アローだ！」ドリトル先生がつぶやくように言いました。
　ロング・アローが右腕だけをゆっくりあげて、ドリトル先生の手を握りました。歴史に残る瞬間でした。

●福岡伸一『ツチハンミョウのギャンブル』 文藝春秋

目次

まえがき 8

Chapter1 身近なサイエンス
ある産科医の物語 14
またまた円周率 19
きれいな結晶の作り方 22
真水と海水、どちらが早く…… 25
謎の真珠玉 28
ネガコン、ポジコン、スパコン？ 33
パナマ事件に巻き込まれる 36
スイカ自由研究 39
マリーゴールド作戦 42
キノリン酸仮説 45
不謹慎狩り 48
変わらないために変わり続ける 51
ビック・ピクチャーに挑む 54

Chapter2 ピープル・オブ・サイエンス
研究レースの行方 58
アマチュア賛歌 61
ドクターノグチ 64
「数学の魅力」を伝える二人 67
ペーボの失敗 70
祝大村先生ノーベル賞 73
ある日本人青年の肖像 76
今年のノーベル賞は体内時計 79
スティーブの行方を知った日 82

Chapter3 サイエンス健康論
健康診断と採血の技 86
ダイエットの公式 89
ビスコッティ・ヴィンサント 92
上からと下から 95
マヨネーズとピロリ菌 98
tip of the tongue 101
トリプトファン 104
ボトックスと食中毒 107
アレルゲン検査 110
赤ちゃんが最初に出会う他者 113
テロメアのサスペンス 116
imori fingers 119
再生医療の未来 122
膵臓の中のマリメッコ 125
体内の凶悪脱獄犯 128

Chapter4 大人の昆虫採集
夏の扉 132
虫オタク受難史 135
ヘンタイについて語ろう 138
東京のカブトムシ 141
オオミズアオを育てる 144
子どもが失踪する 147
ツチハンミョウのギャンブル 150
スパイダーマン 153
大人の昆虫採集 156

Chapter5 フェルメールの謎が解けた
フェルメール作品の行方 160
NY のリ・クリエイト展 165
突然、現れた「聖女」 168
青の文化史 171
フェルメールの謎が解けた 174
絵画盗難事件 177
今世紀最大のフェルメール展が来る 180

Chapter6 我が心のニューヨーク
五月のハッピーデイズ 184
コンビーフにやみつき 187
ココヴァン 190
『ゴッドファーザー』の店 193
ソニアさんの農場にて 196
ニューヨークの釣り 開高健 199
ベルの実験 202
うまみとしぶみ 205
デジタルストレス 208
写真の記憶 211
アメリカの均衡 214
人種問題 217

Chapter7 進撃の魔人トランプ
サンクスギビング@NY 222
エコプロ 2016 225
進撃の魔人トランプ 228
アメリカ合州国を感じる 231
Fire and Fury 234

Chapter8 違和感の東京
違和感の東京 238
清澄白河の人情体験 241
夏の思い出 244
自由の由来は“古の条約” 247
人口減少を憂うべきか 250
デモグラフィック 253
前へならえ 256
コインロッカーと木の洞 259
恐怖のコインロッカー 262
オーロラ 265

Chapter9 本の未来
米原万里と“忖度” 270
ジャック・カーリイにはまる 273
「埋もれた」巨人 276
ボブ・ディラン文学散歩 279
共同忘却論 282
知恵の学校 ハカセの予言 285
カズオ・イシグロとお寿司 288
海鳥書房に行く 291
書店をめぐる旅 294
京都のサプライズ 297
本の未来 300
君の名は。論 303
世界一有名な日本人現代芸術家 306
居抜き美術館 309
ザ・キーパー 312
福岡ハカセ、ご質問に答えます 315
就活解禁 面接のコツ 318
阿川さんおめでとう 321

付録 ハカセの「この人に会いたい」
フェルメールをめぐる冒険―原田マハさんとの対談 326
真の外来種は人間なんです―阿川佐和子さんとの対談 336

ツチハンミョウのギャンブル 150

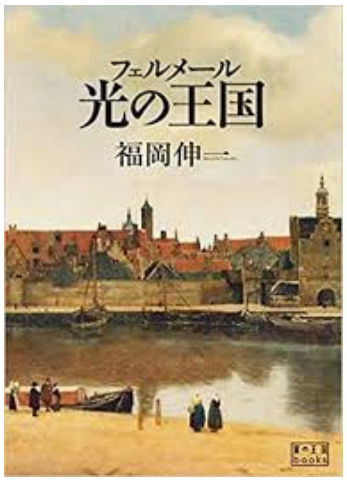
僕たちは卵から孵ったばかり。体長はわずか一ミリメートル。知らない人が見たら小さい毛虫か、翅のない蚊のようにしか見えないはずだ。僕たちの名前はツチハンミョウ。僕たちは地味な色をしている。暗い茶色。総勢四千匹はいるか。しかしこの先、生き残れるのは、一匹か二匹。匂いを頼りに、近くの別の穴に潜りこむ。この穴はコハナバチという蜂の住処。僕たちがコハナバチに求めることはただひとつ。便乗させてもらうこと。蜂のとにかくつかまる突起があればそれにとりつく。手脚をバタつかせて振り払おうとする。僕らも必死にしがみつく。コハナバチは花のところまで飛んできて、そこにとまった。僕たちは一斉に花や葉に飛び移る。あとは待つだけ。運を天にまかせる。一握りのラッキーな者は花にやって来た別の虫たちに飛び移って、またよその花に運ばれてチャンスがやってくるのを待つ。チャンスとは、花粉を集めて回っているヒメハナバチという小さな蜂。この広い森の中で、運よくヒメハナバチと出会うチャンスなんて、万にひとつ。ヒメハナバチの羽音が聞こえた。僕はぱっと蜂の足に飛び移った。ヒメハナバチはせっせと花粉を集めていく。花粉は丸く固められ、地面に掘った巣穴の中にしまわれる。ヒメハナバチはこの花粉団子に自分の卵を産むのだ。そして安全のため巣穴の入り口を閉じる。あたりが静まり返ったあとぼくは動き出す。孵化したばかりのヒメハナバチの幼虫を殺して食べる。それから花粉団子をゆっくりいただく。こうして脱皮をくり返し、秋口になってようやく成虫となる。これが僕たちの生き方なんだ。

合わせて読みたい２冊

●「つちはんみょう」 舘野鴻／偕成社

●「ルリボシカミキリの青 福岡ハカセができるまで』
福岡伸一／文春文庫

●福岡伸一『フェルメール光の王国』 木楽舎



目次

第一章　オランダの光を紡ぐ旅　8
フェルメール、レーウェンフック、そしてスピノザ―フランクフルト、アムステルダム、ライデン　10
フェルメール、ラピスラズリ、そしてエッシャー　―ハーグ　21
フェルメール、エッシャー、そしてある小路―デルフト　32
第二章　アメリカの夢　40
東海岸の引力―ワシントン D.C.　42
ニューヨークの振動―ニューヨーク　52
光、刹那の微分―ニューヨーク　65
第三章　神々の愛でし人　83
言葉のない祈り。そしてガロア―パリ、ブール・ラ・レーヌ　85
幾何学の目的。そしてルイ=ル=グラン―パリ　93
第四章　輝きのはじまり　104
フェルメール、光の萌芽―エディンバラ　106
無垢の少女―ロンドン　116
フェルメールの暗号―ロンドン　135
旋回のエネルギー　―アイルランド　147
第五章　溶かされた界面、動き出した時間　160
つなげるものとしての界面―ドレスデン 162
溶かされた界面―ベルリン、ブラウンシュヴァイク　177
壁、そして絵画という鏡―ベルリン　190
第六章　旅の終焉　204
土星の輪を見た天文学者―パリ　206
時を抱きとめて―ウィーン　222
第七章　ある仮説　237
あとがき　252

フェルメール、レーウェンフック、そしてスピノザ―フランクフルト、アムステルダム、ライデン　10

画家ヨハネス・フェルメールは 1632 年、オランダに生まれた。奇しくも同じ年、アントニ・ファン・レーウェンフック、そしてベネディクトゥス・デ・スピノザが同じ国に生を享けた。方法は異なるものの、彼らは同じものを求めた。それは、フェルメールの作品の細部に秩序ある調和として現れている「光のつぶたち」であった。

光が、音や電波のような振動、というよりはむしろ粒子であることを論理的に予言したのはアインシュタインである。1919 年に起こった完全皆既日食において、アインシュタインの予言は見事な形で立証された。

しかし、アインシュタインに先立つ 300 年近く前、すでに光が粒子であることを、確かに認識していた人間がいたのだ。それが、ヨハネス・フェルメールである。

フェルメール作『地理学者』がある。フェルメールの“部屋”で、大ぶりのガウンを身に纏った科学者がコンパスを持つ手をとめて、ふと顔を上げる瞬間。窓から入る光に照らされた鮮やかな衣装の色。この作品のモデルの科学者が、フェルメールをして、光のつぶたちを“見る”ことへと導いた可能性がある。

アントニ・ファン・レーウェンフックは 1632 年 10 月 24 日、オランダのデルフトで生まれた。ヨハネス・フェルメールも同じ年に生まれた。2 人の名は教会の洗礼名簿の同じページに記載されている。今日、生物学史に、顕微鏡の父、微生物の発見者としてその名が輝くレーウェンフックは、しかし、科学者としてラテン語をはじめとした正規の教育を受けたわけでもなく、またアカデミアに所属していたわけでもない。

彼は商人の家に生まれ、商人となるべく育った。織物商に奉公して、その後、デルフト市の公務員となった。かたわら彼は一生涯、アマチュアとして何台も顕微鏡を自作し、改良し、レンズを磨き、微細な視野に広がる驚くべき豊かな世界を記述しつづけたのである。

合わせて読みたい 2 冊

●『光る壁画』吉村昭/新潮文庫

胃潰瘍や早期癌の発見に絶大な威力を発揮する胃カメラは、戦後まもない日本で、世界に先駆けて発明された。わずか 14 ミリの咽喉を通過させる管、その中に入れるカメラとフィルム、ランプはどうするのか……。幾多の失敗をのりこえ、手さぐりの中で研究はすすむ。そして遂にはカラー写真の撮影による検診が可能となった。技術開発に賭けた男たちのロマンと情熱を追求した長編小説。

●『光る遺伝子 オワンクラゲと緑色蛍光タンパク質 GFP』

マーク・ジマー/丸善株式会社

2008 年ノーベル化学賞受賞テーマである緑色蛍光タンパク質の発見と実用化の道のりを非専門家向けに、わかりやすく書いた読み物。ホタルやクラゲに由来する蛍光物質がもたらしたバイオテクノロジーの進歩を、その発見から最新技術の応用に至るまで、個性ゆたかな科学者たちのエピソードとともに語る。前半では、オワンクラゲやホタルからの生物発光の発見の歴史を、後半では、医療から防衛・安全保障、芸術に至るまで幅広く用いられるようになった最新の技術に迫る。

『世界のともだち　イスラエル』 17

“小さな芸術家　シラ”　　**写真・文　村田信一　／　偕成社**

８才のシラは地中海に面した大きな街、テルアビブで暮らしています。シラは、お父さん、お母さんの３人家族。お母さんは看護師で、毎日病院で忙しく働いています。お父さんは、テルアビブの建設会社で保険のコンサルトをしています。シラが住んでいるテルアビブは地中海にも近く、１年中あたたかい、ゆったりとした明るい街です。近所には、おじいちゃんおばあちゃん、お母さん兄弟の家族やお父さんお母さんのお友達が沢山住んでいて、みんなでよく集まります。ひとりっこのシラにとって、年の近いいとこたちは、まるで兄弟のようです。シラはとても不思議な雰囲気をもった女の子。活発で、まわりを明るくさせるような子どもです。いちばん好きなことは絵を描くこと。将来は画家になりたいと思っています。絵を描くために生まれてきたのかと思うくらい、絵が好きで、そしてとても上手です。学校のある日、シラは７時ごろ起きます。学校は制服がなく、それぞれが好きなシャツに学校の校章をプリントしたものを着ることになっています。３年生のシラのクラスは 40 人。勉強する科目は、国語（ヘブライ語）、文学、算数、英語、野菜栽培、音楽、美術、動物の飼育などです。動物の飼育という科目では、ウサギを校庭で育てています。授業はのんびりとした、自由な雰囲気ですすみ、クラスメイトは楽しそうです。お昼休みにはお弁当を食べます。お弁当といっても、とてもかんたんなもので、パンひとつだったり、ハンバーグと野菜スティックだけだったり。ほとんどの子が５分くらいで食べ終わり、すぐ遊び始めます。放課後は家に帰り、ひと休みしたあと、まず宿題にとりかかります。毎日夕方になると、犬のソムソムとお散歩にでかけます。テルアビブには、ペットとして犬を飼っている人がたくさんいて、シラの家のまわりを歩くだけでも、犬を連れた人たちと何人もすれちがいます。シラのくらすテルアビブは 20 世紀に入ってからできたあたらしい街です。もともとアラブ人がくらしていた土地に、世界中にわかれてくらしていたユダヤ人たちが移り住んで街ができました。その後、1948 年にユダヤ人の国、イスラエルが建国されました。イスラエルは公式にはエルサレムを首都としていますが、国際的には認められておらず、政治や経済の中心はテルアビブにあります。また、テルアビブには、芸術家がたくさん移住してきた影響もあり、街中にたくさんの美術館、博物館があり、「芸術の街」といった雰囲気もあります。テルアビブの学校では、美術や音楽の授業がとても大切にされていて、シラも学校のお友達ときどきお絵かき教室に通っています。いつもとても楽しみにしているだいじな時間です。芸術の街に住む小さな芸術家のお友達ののんびりとした日常をぜひのぞいてみてください。**（要約：K.M）**

『世界のともだち　パレスチナ』 18

“聖なる地の　ルールデス”　　**写真・文　村田信一　／　偕成社**

古くから伝統と信仰が息づき、祈りの声がこだまするエルサレム。この街に 10 才のルールデスはくらしています。ルールデスはお父さん、お母さん、弟の４人家族。お父さんは旅行会社を経営していて、とてもいそがしく、家に帰ってくるのはいつも夜遅くです。キリスト教徒のルールデス一家は、東エルサレムの旧市街のなか、古くからある城壁でかこまれた街でくらしています。長い歴史をもつ旧市街にはたくさんの歴史的な建造物や遺跡があり、キリスト教、イスラム教、ユダヤ教、それぞれの聖地となっています。ルールデスはクラスのリーダー。体が大きく、勉強もできる彼女のまわりには、いつもクラスメイトたちが集まっています。学校では、どんなことにも積極的に取り組んでいます。洋服のデザインを考えたり、バービー人形の服をつくったりするのが好きで、将来は洋服のデザイナーになりたいようです。料理のお手伝いはルールデスの担当。サラダやひよこ豆のペーストのホンモス、マクルーバというアラブ式たきこみごはんがとくい料理です。ルールデスの学校はフランスに母体があるキリスト教系の女子校です。教室の中は整然とつくえがならび、みんな真剣に勉強をしています。ルールデスの好きな科目は化学、算数、フランス語と地理。にがてな科目はありません。昼休み、みんな中庭に出てお昼ご飯を食べます。お弁当はとてもかんたんなもので、立ったままお友達とおしゃべりしながら食べ、あっというまに食べ終わります。学校には礼拝堂があり、ときどき友だちと一緒にお祈りをしにいきます。いつもにぎやかなみんなも、このときばかりは真剣な表情でおとなしく、一心(いっしん)にお祈りをします。ルールデスは学校に行くことがなによりも好きです。友だちと話したり、勉強したり、学校ですごすふつうの毎日がとても楽しいようです。学校の帰り道、ときどき旧市街の外にでて、ユダヤ人が多くくらす新市街に買いものにいきます。学校から近い門をでてすぐのところに数年前にオープンしたショッピングモールがお気に入りです。パレスチナは国ではなく、イスラエルの占領下にある「パレスチナ自治区」という地域です。第２次世界大戦のあと、ユダヤ人がパレスチナ地域に国を作ると宣言すると、中東戦争が始まり、多くのパレスチナ人は土地を追われ、難民となりました。残った人たちは、ユダヤ人がつくった新しい国であるイスラエルの占領下でくらすことになったのです。1987 年にイスラエルの占領に抵抗する運動がはじまり、ガザ地区がパレスチナ人の自治区となりました。しかし、自治区が成立したあとも。イスラエルはたびたびパレスチナ側に攻め込んだり、分離壁という大きな壁をたてて土地の行き来を自由にできなくしたりしていて、パレスチナ自治区にくらす人々の生活はきびしくなる一方です。ルールデスがくらす東エルサレムも今はイスラエルに占領されています。パレスチナが国として独立し、東エルサレムを首都にするということが、パレスチナ人の願いです。和平を願いながら、明るく暮らす世界のお友達の日常が描かれています。**（要約：K.M）**

＜＜千の声 VOICE＞＞

□幼虫から育てた７匹のカブトムシ（2020 年）

息子の昆虫記

一昨年息子３歳の夏、お友達からもらったカブトムシ雄雌一対を息子はとても可愛がり、毎日触り、話しかけ、廊下を歩かせたりして遊び、歌まで作って歌っていたので、昨年は幼虫から育てよう、と決めていました。２月頃、息子を引き連れ、砂場用のシャベルを片手に、近所のいろんな公園へ行き、今思えば、「あんなところにいるわけない」と思うような硬い地面を手当たり次第掘りすすめました。聞き込みや情報収集の末についに見つけて、持ち帰った幼虫は人違いならぬ、「虫違い」のハナムグリの幼虫。「カブトムシの幼虫、いたー！！」と親子で大喜びしたのに。それを見て、憐れんだ地元育ちのパパ友が今度は一緒についてきてくれて、やっと本物のカブトムシの幼虫に出会いました。（カブトムシの幼虫はハナムグリよりとても大きく、しっかりと大きい茶色い顔と顎がついていて、背面歩きのハナムグリとは全然違いました。）その後、情報収集の際に出会った『相模原市昆虫文化を子供たちに伝える会』の方も手を貸してくださり、集団生活する幼虫も観察することができました。

春の緊急事態宣言中は幼虫の世話で大変楽しく過ごしました。とても驚いたのは、フンの大きさと多さでした。息子は園芸用のふるいでフンと土を振り分ける担当をいつもやってくれました。そのうち、いろいろな公園へ出かける度に、「ここにはいるね」という勘が生まれ、幼虫がいそうな朽ち木を見つければいつもひっくり返すようになり、４月末には我が家のカブトムシ幼虫は７匹になりました。

蛹室ができ、蛹になり、成虫になり、ついに土から出てきました。息子は慣れた手つきで１年ぶりのカブトムシを触りました。初夏にマンションの外廊下でカブトムシと遊んでいたときに、１匹、飛んで逃げていった個体もありましたが、秋まで無事に育てあげ、お墓を作ったり、標本を作製したり、息子なりに生と死を感じることができたと思います。

さて、今年も２月になりました。そろそろ幼虫採集の時期ですね。皆さんも幼虫採集に出かけ、カブトムシの飼育をされるのはいかがでしょうか。**●バンリ君（年中）のお母さんからの VOICE■**

□お勉強が楽しい♪親子で楽しく取り組む♪

日々の取り組み

娘が石川塾に通い始めて半年が過ぎました。家でのお勉強を習慣化させることは本当に難しいことだと日々痛感しております。本人の気分が乗りやすいタイミングでやらないと集中力が持たなかったり、また子どもがやると決めた時間にやらなかったりすると喧嘩になったり。試行錯誤しながら取り組んでいます。一日に取り組むプリントの枚数はそれほど多くはないのですが、それでも既にやり終えたプリントは結構な量になりました。「これだけやったんだ！」と、この先の娘の自信に繋がるといいなと思っています。また、朗読暗唱は親子で取り組むようにしています。長い時間を経て、改めて目にする昔の作品は、学生の頃には感じなかった気づき、印象があり新鮮です。しかし読んでいる子どものほうは意味が全く分からずで沢山の質問をしてきます。こちらもなかなかうっかりはしていられません。私自身が解説付きの論語や古典文学の本を読む事になりました。このような感じではありますが、娘は石川塾でのお勉強が楽しいと言っております。これからも親子で楽しく取り組んで行けたらと思います。石川塾長、光樹先生、これからも宜しくお願いいたします。

●ノノカさん（年長）のお母さんからの VOICE■

□宮沢賢治の「稲作挿話」は五か月かかって暗記♪コツコツと積み重ねる♪

一年の歩み

昨年春に二年生に進級し、新しいクラスメイトとの学校生活を楽しみにしていましたが残念ながら新型コロナウイルス感染症予防のため小学校は休校、外出を控えるため自宅に籠る日々。体力を持て余す子どもたちと自宅で過ごす日々は親にとっても負担になりました。子どもが学校で勉強し、お友達と遊ぶ、習い事に通う……これまで当たり前のように過ごしていた日常がいかに大事なことであるかと、改めて有難いことなのだと気付かされました。

石川先生はコロナ禍でも休講することなく、いつでも子どもたちを迎え、学びの大切さや楽しさを教えてくださいます。生活のリズムが乱れるなかでしたので、勉強に向かう時間を持てたのは良かったです。娘は本を読むことが好きなのですが、石川先生が 15 分サービスして取り組まれている「速読＆クイズに挑戦」があり「イッキによめる！名作選」を読んでいますが、今は「六年生」に挑戦している所です。習っていない漢字でもルビがふってあるので読み進められますし、文中からクイズの答えを探すので文章の読解力も身に付きます。だいたい時間内で読み終えてクイズの回答もできる内容なので毎回違う話を読むことが出来ます。国語力が付きますしサービスと思えない、楽しく有難い時間です。

他には文章を丸ごと暗記する「徹底反復　音読プリント」は中級編に取り組んでいますがいつも塾に着くと、まずこの本を出して読み始めます。長い文章でとても暗記できる気がしない、と思うのですが、徹底的に反復することで覚えられるようになるのです。千家元麿の「雁」は二か月、宮沢賢治の「稲作挿話」は五か月！かかって暗記しました。出来る気がしない、と思っていたこともコツコツと積み重ねることで出来るようになるので凄いです。子どもは覚えられた達成感と自信がつきます。次の難題「蜘蛛の糸」に挑戦していて、これもコツコツ続けることでいずれ覚えられることでしょう。

他には、算数検定や漢字検定を推奨され目標を持つことで、方向性を持って勉強に取り組めます。塾で検定の過去問をコピーさせてくれるので、自宅でも取り組んでいます。10 月の算数検定を受けると決めました

が、学校でまだ九九を習っていなかったのでまず九九を覚えなければなりません。すぐ覚えられると思っていましたが、すんなりと覚えられたのは二の段まで。三の段から覚えられず思いの外苦戦しました。お風呂や食事、テレビを見る合間、車の中など、気付いたときに練習させていました。そうしている間に学校でも九九が始まったので良いタイミングで覚えることが出来ました。あとは過去問を繰り返し解いて、余裕はありませんでしたが何とか無事に「合格」出来ました。

次は漢字検定に向けて、こちらも過去問を繰り返し解いて頑張っています。漢字のよみがなは間違えることなく書き順もまあまあ出来ているので、漢字のとめる、はねるに気を付けて書けば合格できそうです。この春の進級に向けてこれからもコツコツと学びを続けてほしいです。

●ナナミさん(小 2)のお母さんからの VOICE■

□マスク・無言給食・歌なしの小学三年生

忘れられない年、令和二年

こんな事になるとは。4 月の緊急事態宣言を受け、新学期延期の知らせ。「家で過ごして人との交流を避けよ」とのお達し。シュールに聞こえるけれど実際、人類と未知の生物との生存戦争に入ったのだから学校どころではない。辛いのは行動制限と言う心理的圧迫感だ。そんな中、息子は午前は家で過ごし、午後はいつもの近所仲間と家の周りで長時間過ごしていた。当時、外遊びは好ましい行いではなかったかもしれないが、私はそれを許した。家の周りでは子どもらが集まり仲良く遊んでいた。やがて日がたつに連れ仲間うちでも徐々にいさかいが増えていく様子が見られた。そしてやっと 6 月に学校が再開し息子は喜んだ。

学校では新たな行動制限がしかれ、マスク以外に給食時 10 分は黙食、音楽は歌なし、体育も最小限。子ども達は皆ルールに従っている。

緊急事態宣言前、私は先生お勧め吉村昭さんの「関東大震災」を読み、腹にガンと拳を入れられた。大災害を前に人心がいかにもろく打ち砕かれ、大混乱と容赦ない愚行を起こすのかを学んだ。休校中でも先生は塾を休まなかった。信念を持って学びを止めないように我々を励まし続けていた。休校中も週一で通塾し学習を続けたおかげで、息子は 6 月の数検のあと 10 月の一つ上の級の数検にも間に合う力が付いたと感じる。先生のような先達者が傍にいて下さる事を心強く有難く感じた令和二年でした。

残念ながら息の詰まる状態が未だに続いている。この一年、皆さまそれぞれに語りつくせぬご苦労があったと思う。あともう少しの我慢だと言い聞かせ、皆さんと共に今を乗り越えて行きたいです。

◎一年間、コウタロウが塾でがんばったこと◎

1　　朗読暗誦　6 詩歌（累計 60）
2　　百マス足し算、引き算、かけ算、わり算 A 卒業タイムクリア
3　　清風堂算数習熟プリント小学校三年生　40 頁
4　　二、三年生の漢字書きとり　80 文
5　　数学検定 9 ・ 8 級、漢字検定 8 級の学習受検合格
6　　イッキに読める！名作選 4 ・ 5 ・ 6 年生終了

●コウタロウ君(小 3)のお母さんからの VOICE■

＜夏に食べたソフトクリーム＞

□中学受験への道　～道標その①～

はじまり

２月から中学受験に向けて勉強を開始した美侑。現在私立中学校に通う中学 1 年生の兄がいます。中学受験を乗り越えて、希望する学校に合格するまでの道のりは険しいものでした。娘は兄の勉強する姿を間近で見ていたので、受験はしないというだろうと思っていました。しかし、好奇心からか、私も受験してみたいと言い出しました。

兄の場合、小さい頃から生物に興味があり、中学生になったら生物部に入りたいと熱望していました。また、電車も好きなため、電車通学したい思いもあったようです。もともとの気質もあるとは思いますが、兄は過酷なスケジュールの中でも、自分を見失うことなく、周りに流されることもなく、落ち着いて取り組んでいました。もちろんたくさんの課題に追われ、睡眠時間は取れず、食らいつくのに必死でしたが。兄は、中学受験専門塾に通っていたため、スケジュールを管理され、理解度定着度関係なく次々と課題をこなしていかなくてはなりませんでした。学習方法も管理されているため、自発的になにかやるのではなく、与えられたことを期間内にやらなければならず、自己管理する余裕はなく、毎週受けるテストのデータを活用することができませんでした。すべてをこなさなければならないと思わなければ、もっとうまく活用できたのかもしれません。中学受験は、受験データも豊富な中学受験専門塾に通わなければ合格できないと思われがちです。実際娘も、受験しようと思うと話すとどこの中学受験専門塾か聞かれました。

今回石川先生に娘の受験をお願いしたのには理由があります。一番大きな理由は、娘が石川先生に絶大な信頼を寄せているからです。兄と同じ塾に入塾させるか悩んだとき、娘は石川先生のところでの受験を希望しました。私は、中学受験専門塾での受験経験しかないので、実はとても悩みました。石川先生に相談しているうちに、娘の受験が兄のそれと違う進み方をしても、目標を持って、しっかりゴールを目指せていたらいいと思うようになりました。娘はストレスを感じると体調に現れたり、精神的に不安定になったりしやすいところがあります。兄のように図太く、あっけらかんとしていないのです。良くも悪くも繊細さが娘の持ち味です。今はまだ、ほとんどすべてが初めてのことだらけですが、できたら楽しい！！をたくさん経験することを課題に

しています。今後、受験勉強が進むにつれて、難しい内容も増えていくと思いますが、きちんと積み上げられる土台作りができる教材を先生に紹介してもらって日々進めています。娘の能力に応じた勉強方法と時間の使い方を模索しながら、先生・娘・親で連携をしながらゴールを目指して頑張っていきたいです。

●ミユさん（小 3）のお母さんからの VOICE■

□子どもが興味を持つことにはとことん付き合う　～二人の息子の子育て記～

生き物が大好き

我が家の息子は年子です。（現在小５と小４）

二人とも歩けるようになると虫や生き物を見つけて、捕まえて、観察して…家でも生き物に関する図鑑、絵本、テレビ番組に夢中。一時は玄関に虫かごが８つ並び（全て違う生き物が入っていました）、外にはザリガニやカニまでいたほどです。生き物の管理は大変でした。「絶対世話をするから～！」と毎回宣言するものの次の日にはそんな話をしたことすら忘れているのが子どもですから（笑）虫かごの蓋を閉め忘れて、家の中で虫が脱走することは日常茶飯事。産卵前のカマキリが部屋に脱走し、顔をめがけて飛んできたときは年も忘れて「ギャー！！」と近所に響き渡る声で叫んだこともありました。近所の方にはご迷惑をおかけし本当に恥ずかしかったです。子どもたちにとって一番衝撃的だったのは卵から出たばかりのトカゲがいなくなり数日後にテレビの後ろから漢方薬並みに干からびて出てきた時。二人とも変わり果てた小さなトカゲを手のひらにのせて大泣きしました。この経験から子どもたちは蓋を必ず閉めなくてはいけないことを学んだようです。

私は【子どもが興味を持つことにはとことん付き合う】ことを子育てで大切にしています。それは、独身時代「幼い子どもの毎日の体験はノーベル賞に負けない発見をしている」と聞いたことがきっかけとなっています。とはいっても生き物三昧過ぎて心配になることもしばしばでした。ちょっと偏りすぎてないかな…他のものにも興味を持って欲しいな…幅広く色々な経験をして欲しいな…と悩むこともありました。

小学生になると私の心配を裏切り、二人とも色々な事に興味を持つようになりました。生き物は変わらず大好きですが、長男は漢字、次男は歴史が大好きになりました。

長男は成長がとてもゆっくり。学習も一つのことを習得するのにとてもとても時間がかかります。ですが、一度やると決めたことは最後までやり遂げます。上手くいかなくて涙が出てしまうときでも自分で決めたのだから・・・と決して投げ出したりはしません。５年生になりしばらくして「ママ、塾に僕も行きたい」と言うようになりました。

次男は小学校３年生の時 TV で環境悪化のためホッキョクグマの個体数が激減していることを知ります。「僕は生き物を守る！だから勉強をして色んなことが学びたい。塾へ行ってみたい」と言い始めました。また、友達のお姉さんお兄さんの影響もあり中学受験にも興味を持ち始めます。いくつかの塾へ体験学習に行き、その中で自分が一番楽しかった塾へ通うようになりました。４年生になると塾で学ぶことがぐんと増えました。塾で学ぶことが楽しいと口では言っているものの、覚えることは沢山。初めて学ぶことなので修得するのも苦戦。楽しんで学んでいる様子が減っているように感じ、これでいいのかな…と考えることが増えていました。

長男の学びをサポートしてくれる、次男が興味のあることを自分のペースで学べる、そしてホッと安心して学べる塾・・・その両方を求めて石川先生の所へ体験に伺いました。先生の温かいお人柄、部屋にびっしりと置いてある沢山の本に息子たちはすぐにここへ通いたいと言いました。そして、靴箱の上に飾られている虫の標本があったことも嬉しかったようです。長男について、石川先生にお伝えしたところ、「大丈夫です」と即答でした。

親としても安心して通わせられる塾だと感じました。

入塾後すぐ長男は今まで自分で練習してきた漢字を「漢字検定」を受けることで成果として残すことができました。力を試すようなテストは初めてでしたが後日合格通知を受け取りとても喜んでいました。今は、一つ上の級の合格を目指して勉強しています。

次男は石川先生の所で借りる本が楽しみで仕方がないようです。また、要旨要約では自分では手に取ることのない本に触れ、図書館で続きを借りてみたりして（完読は難しいようですが）本を通じて世界が広がっています。最近始めた「ホモサピエンス全史」は生き物好きの息子には大ヒット！１回目の塾から戻ってすぐに「もう、今日は最高だった！サピエンス全史面白すぎる！」と満足そうな表情でした。

石川先生をはじめとする息子をサポートしてくださる方たちを通して得られる色々な経験や学びに感謝しながらこれからも【子どもの興味を持つことにはとことん付き合う】子育てを楽しんでいきたいです。

●シンペイ君（小 4）ジュンペイ君（小 5）のお母さんからの VOICE■

□「受験したい」と息子が言い出した５年生の８月　～公立中高一貫校受験の記1～

今さら、ちょっと待ってよ……

「中学校は近いところが一番。移動の時間はもったいない。」と言い切っていた息子が「受験したい」と言い出したのは、コロナ禍の短い夏休みが終わった５年生の８月下旬だった。「今さら、ちょっと待ってよ……」と慌てて石川塾に飛び込み、下打ち合わせもないのに「受験勉強を始めれば、できなくなることもあるんだよ」「その学校に行けば幸せになれる訳ではないんだよ」と考え直すよう説得すること２時間…。息子は黙って私たちの話を聞いてはいたけれど、諦める様子はさらさらなく、さらに帰宅後、２時間も何をしていたんだと主人にあきれられたことをよく覚えている。

――あれから半年。息子は途中何度も機嫌を損ねたり、ため息をついたり、肩が痛いと顔をしかめながらも、心折れることなく受験勉強に励んでいる。

何が息子を受験へと向かわせたのか

一方、私はこの半年、折に触れて何が息子を受験へと向かわせたのかと考えてきた。コロナによる休校前は、学校生活を最大限楽しみ、興味のままに進めていった「起業」の活動が広がりを見せ始め、少しずつ自信をつけているように見えた。私も息子に寄り添いながら、自分が結構楽しんでいた。だからそのパワーが突然受験に向かったことに戸惑ったし、もっとひどいことを言えば、「コロナさえ収まれば、また元の活動を再開できるのに……。受験勉強を始めたらそんな時間もなくなっちゃうよ」というのが本音だった。

僕もお金を稼ぐから、みんなでお金を貯めて早くメキシコに行こうね！

そんなコロナ前の活動は、3 年生の夏休み前の息子のひと言から始まり、4 年生の一年間に一気に展開していった。

「ねえ、今度のお休みにメキシコに行こうよ。メキシコのおばあちゃん達に会いたいよ」

「そうだね。でも、家族みんなで行くのにはすごくお金がかかるし、すぐに行くって決めて行ける距離じゃないんだよ」

「えっ、いくらぐらい？僕もお金を稼ぐから、みんなでお金を貯めて早くメキシコに行こうね！」

――なんて前向きで、まっすぐで、爽やかなんだろう。この言葉には、ハッとした。

そんなに強くメキシコに行きたいと思っていること、それを他力本願ではなく、自分で何とかしようと思っていることに感心した。自分で実際にお金を稼げたら、ものすごく自信がつくだろうな、何か協力をしてあげたいなと思った。ただ、そうは思ったものの、息子のアイデアといえば、庭のみかんをスーパーに売りに行くとか、通りを歩いている人に自分の描いた絵を売るとか、家の前で手作りのお菓子を売るとか、前途多難に思えるアイデアばかりで、気がつけば「ダメ出し」のオンパレード……。応援どころか、「そんなの無理、無理」と話を聞き流してしまうことが増えていった。

一方の息子は、懲りずに学校でもアイデアを披露していたらしく、あるママ友に「なおき君、いつお店をだすんですか？」と聞かれたときには、一体どんな話になっているのかと、冷や汗をかいた。商売のアイデアを聞いているうちに気になったのが、クッキーを売ったらそれがすべて儲けになると考えていて、材料にいくらかかるとか、どこで売ったら売れるのか、という考えが欠如していることだった。ある時、「一日に何人の人が家の前を通ると思う？そのうちの何人が、見ず知らずのなおきが作ったクッキーを買ってくれるかな？」と質問したら、「だったら駅のそばの路上で売ればいいんだよ」という答えが返ってきたこともあった。

商店街の夏祭りに個人で出店で、赤字！

＜本物の 100 万円を前に＞

私なりに小学生ができる「お金稼ぎ」について考えたり調べたりしてみたけれど、子どもが商売をすることは、なかなかハードルが高い。そんな中、地元の商店街の夏祭りに個人でも出店できることを知った。「何か売ってみる？」と聞くと、「メキシコのジュースを売りたい」ということで、あっという間に話は現実化していった。時は 4 年生の夏休み。息子の「自分もお金を稼ぐ」発言から 1 年が経過していた。その 3 ヶ月前のゴールデンウィークに、メキシコ一時帰国は果たしていたのだけれど、商売に対する息子の情熱は冷めていなかった。直前に出店のことを知った石川先生が急遽宣伝をして下さったこともあって、石川塾の塾生のご家族もわざわざ足を運んで購入して下さり、あの時はとても有り難かった。お店ではメキシコのジュースの他、コロナビール 、ワカモレとトルティージャチップスを販売したが、結果は赤字だった。心配していたお天気には恵まれたものの、猛暑のせいで予想以上に人通りが少なく、子どもが買ってくれるジュースに比べて、利益率の高いビールや軽食がなかなか売れなかった。

家族で何日も前から用意をし、原価を計算し、単価を決めた。それなのに儲けがでるどころか、出店のために買わざるを得なかったレジャーテーブルなど、一部のお金が回収できなかった。すべての計算を終えた後に「本来なら、ここからさらに一緒に仕事をしたパパやママにアルバイト代を出して、その残りがなおきの儲けになるんだよ」と伝えると、息子はさらにショックを受けていた。商売をしたら必ず利益が出る訳ではないということを、身をもって知った瞬間だった。疲れ果てた主人が「来年は勘弁して」と言うのをよそに、「次回こそは！」と張り切っていた息子だが、コロナの影響で残念ながらいまだリベンジできていない。

おとな入場禁止の子どものためのカフェに参加！「起業クラブ」のメンバーになる

この年は、その後町田新創業産業センターが主催した「こども起業塾」に参加するチャンスにも恵まれた。小 4～小 6 までの児童 6 人でグループをつくり、架空の会社を設立する。メンバーは社長を始め、仕入れ、会計、宣伝担当などの役について、町田にちなんだ商品を作って販売するのだが、資金調達のために本当の銀行員を相手にロールプレイングをする場面もあり、内容の濃いワークショップだった。最後は利益から資金調達分を引いて、全 6 グループのうち一番多い儲けを出したチームが優勝した。

そして冬休み。こどもたちの探究心に火をつけることをコンセプトにしている「探究学舎」の 2 日間のスペシャル授業「経済・金融編」に参加した。見学している親も引き込まれるという授業の前評判に、私も期待を寄せて参加したのだが、飽きさせない授業内容だった。100 万円の札束を現物で見せて回してくれたり、起業についてゲームで学んだり、企業家と投資家の違いについてスライドで学んだり、中国の富裕層と貧困層の違いを見るビデオ鑑賞の時間などがあり、様々な視点から学ぶお金の学習だった。

このスペシャル授業の終わりに、当時小 6 だった女の子が「自分の夢だった子どものためのカフェを開きます！」と宣伝をしに来ているのを見て、息子は迷わず、カフェへの参加を決めた。初対面で知らない子どもばかりが集まるカフェに行くなんて、大丈夫かな？と思いつつ、何かが息子の中で変わり始めているように感じ

た。その積極性を応援すべく、当日は電車を乗り継ぎ、立川まで送っていった（子どものカフェなので大人は入場禁止だった）。
　その後、このカフェに参加をしたご縁で、探究学舎がサポートをしていた「起業クラブ」のメンバーになることができ、息子はコロナ前から定期的に ZOOM を使ってミーティングに参加をするようになった。春休みの探究スペシャル開催時向けに、塾内で飲み物や軽食を販売する企画があると、その具体的なメニューを考えたり、保健所からの勧告で飲食の販売が難しいと分かると、メキシコの「ピニャータ」というお菓子を入れたくす玉をみんなで叩いて割るイベントを提案したり、思いついたことを迷わず発言するようになっていった。それは「子どものいうことをゼッタイに否定しない」という探究学舎の自由でおおらかな雰囲気のもと、安心してミーティングに参加できたことや、そんな息子の意見をダメ出しせずに聞いてくれた、周りの寛大なお母さん達のおかげでもあると思う。
　３月に学校が休校になってからも、なんとか活動の場を探していたのだけれど、「場に集まる活動」が難しくなり、休校期間がどんどん延長されていくと、せっかくのビジネスへの好奇心はだんだん下火になり、オンラインのスペイン語レッスンを受けるようになったこともあって、息子の興味は少し方向性を変えていった。
　――夏休み。軽井沢で行う探究フェスで、飲み物の販売ができるかもしれないという企画に、再び望みをかけていたのだけれど、それが完全にオンライン化されることが分かると、なんだかもう、何に活路を見出したらいいのか、何にエネルギーをぶつけていいのか分からなくなってきた。一日オンラインフェスに参加した息子は、その日の終わり、探究学舎の代表が感極まって涙するのを画面越しに見て、一緒に泣いていた。やりたいことが見え始め、仲間ができて、それを実現するための場も何度も用意されたのに、結局何も形にできないまま時間が流れ、5 年生の夏が幕を閉じた。息子が受験をすると言い出したのは、その 1 週間後だった。

もっと継続的に、実践的にお金について学べる場を

　これまでご縁があった「商売」や「起業」に関する活動を通じて、私は息子や参加している小学生が、夢中になるというか興奮してどんどん熱くなっていく姿を何度も見たし、彼らのつきないアイデアやエネルギーにも触れることができた。一日 5 ～6 時間のワークショップでも、みんな飽きることなく、集中して活動に取り組んでいるのである。夏祭りや起業塾を、単発のイベントで終わらせてしまうのはもったいない。赤字という失敗や優勝できなかった経験から学ぶこと、改善したいと思うことは多いから、それを反映できる次のチャンスを用意してあげたい、もっと継続的に、実践的にお金について学べる場を用意して、取り組ませてあげたいと考えるようになった。コロナの影響で、できないことも増えてしまったけれど、いずれまた何かにチャレンジしてみたいと思っている。

忘れられない石川塾の塾生のお母さんの言葉

　そして「受験のきっかけ」という点で、もう一つ忘れられない場面がある。
「お兄ちゃん、賢そうな顔をしているね。今から頑張れば、どこでも入れるよ。どんどんチャレンジしてごらん」
　塾から退室する間際の初対面の息子に、そんな声をかけてくださった、石川塾の塾生のお母さんの言葉だ。4 年生の終わり頃だったのではないかと思う。この一言が、それまでの固定観念――受験はもっと特別な子がするもので、自分は関係がない――を変えるきっかけになったのではないかと思うことがある。「僕もチャレンジしていいんだ」「可能性があるんだ」と、それまでの無意識のブロックがスッと外れ、想定外の世界が見えた瞬間だったように感じる。どんなに時間をかけて丁寧に説明をするより、心に響くひと言があるとすれば、これだった。この日を境に、何かが息子の中で変わり、受験への興味が芽生えていったような気がしてならない。２月３日の朝、「一年後かぁ」と言いながら学校に行った息子。今、彼が目標としている世界は、当初私が思い描いていた方向性とは異なるけれど、これまでの様々な経験なくして、決められなかったチャレンジかもしれない。自分で決めた目標に向かう息子を、月並みな言い方だけれど、できる限り応援していきたい。
●ナオキ君（小 5）のお母さんからの VOICE■

□七人の子育て奮闘記①　～長男・次男～

長男「はじめての子育て　～毎日絵本を読む・興味を持ったことは何でもやらせてみる～」

　長男・聖雅は、２日間かかってこの世に誕生した。入院の時から 15 分おきに泣き、よく寝るときは３時間程。約３ヶ月間経過して、初めての子育てで私も疲労困憊。自分の時間がとれず、この先どうなるかも分からない中で、次男を妊娠。二人目が生まれたら赤ちゃんがえりするから、とにかく上の子をかまってあげたほうがいいと義理の母から助言をうけた。
　聖雅がぐずると私も疲労からイライラが募り、手を挙げることもあった。聖雅が寝たあと、すごく落ち込み反省をすることも。自分がされて嫌だったことを、なぜ我が子にしているんだろうと、いろいろな育児書を読んだ。
　気持ちを入れ替え、子どもの可能性を信じて取り入れたのは毎日絵本を読んであげること。聖雅が興味を持ったことは何でもやらせてみること。例えば、じゃり道で裸足のまま遊ぶ姿を見ても、止めずに見守ること。どろんこ遊びもそのまま見守る。包丁で野菜を切りたければ見守る。など義理の母の助けもあって、いろいろな経験をさせてきた。１番すごいなと思ったのは、子どもの記憶力。聖雅が幼稚園に入る前の２歳の頃。同じ絵本を毎日読み聞かせしていたら、聖雅はその絵本の内容を暗記して、はじめの二文字を言っただけで、次の文章が言えた。もちろん字はまだ読めない。また、毎日有名な俳句を繰り返し読み聞かせたら、丸暗記して 10 句ほどそらんじることができた。車の絵本も（本当の写真が載っている）大好きで、働く車の名

前や車の働きも覚えていて真似するほどであった。暗記した絵本達はボロボロになるぐらい読み込んでいた。片手に本を持ちながら食事をするほどに中学生になった今も読書が好きだ。

ママを寝かせてくれない赤ちゃんだった時とは違って、今ではお願いごとを聞いてくれ、お手伝いをよくしてくれる。中学受験で合格したのに、そこには行かないと、自分の意志を貫き通すところは、それなりに成長したあかしだろう。少し頑固なところも出てきたのか、これから自分の将来を決め、そのまま突き進むのだろうと楽しみにしている。

●セイガ君（中 1）のお母さんからの VOICE■

＜七五三で 7 人全員集合＞

次男「人見知りがなく怖いもの知らずの幼少期 ～図画工作が得意で想像力豊な優しいお兄ちゃん～」

次男・聖志は、兄とは 1 年と 4 日違いでこの世に誕生。長男と違ってよく寝てくれる子だった。聖雅のときと同様に絵本の読み聞かせをして、行動を見守る教育をした。ある時、何を考えたのか絵本の 1 ページを食べてしまった。また、絵本の四つ角に穴あけパンチで穴を開けたこともあった。両方とも図書館で借りてきた絵本だったので、新しく購入し弁償した。

一方、人見知りがなく、保育園児がお散歩で公園に来て遊んでいると、構わずその集団に仲間入りし、普通に遊んでいた。怖いもの知らずで、どこへでも一人で行ってしまい迷子になったこともある。そんなある日、私が下の子を妊娠していて聖志と一緒にお買い物へ出かけたときのことだ。帰り道大きいお腹で歩きが遅い私のために、歩幅を合わせて荷物を持ってくれた。

今は 6 年生となり、今年の春から中学生だ。図画工作が得意で、空き箱やビー玉があると自動販売機やパチンコを作り、テレビを見てはピタゴラスイッチを作ってみたりと想像力が豊かで、形にしていくところは本当に素晴らしいと感動してしまう。また、絵を描くのも大好きで、集中して描写するので、特徴をよくとらえ、とても上手だ。小さい頃とは反対に物事をよく観察してから動くという慎重派に。

しかし、下の妹や弟の面倒はすぐによく見てくれて、ママを助けてくれる優しいお兄ちゃんに育った。優しさをそのままに、興味のあることはとことん追求して、将来の道につなげていってくれたらと願っている。**●セイジ君（小 6）のお母さんからの VOICE■**

□漢検 2 級合格、要旨要約 2 冊終了、そして高校受験生へ

高校受験体験記 「国語力」

2016 年 12 月の入塾から早 4 年、もうすぐ中 3 になる。石川ゼミのオリジナルテキストの朗読暗唱や漢字の読み書き、二桁掛け算をクリアした今、漢検や数検、英検そして要旨要約に取り組んでいる。中学生になり運動部に入った娘は、週 5 で練習に明け暮れ、週末には練習試合や大会があり、怒涛の 1 年が過ぎ去った。

2020 年 3 月、突然の緊急事態宣言で学校も部活もストップ。しかし石川ゼミは、学びを様々な形に変換して提供し続けてくれた。娘は漢検 2 級に取り組み漢字漬けの日々となったが、2 回目で祝合格！！要旨要約も 2 冊終了。今や漢字を含む国語は得意科目となり「好きな教科は？」と問われると「国語」と答えるほどだ。読書量も増え読解力もついてきたように思う。中 3 へ進級を控え、全教科の基礎となる「国語力」を石川ゼミで手に入れた。受験に向けスタートラインに立った娘と同じ目線で、見守り後押ししていきたいと思う。

●ミオさん（中 2）のお母さんからの VOICE■

□漢検 3 級・数検 3 級・英検 3 級 “三冠達成” ～ひとつめ～

漢検 3 級合格まで

4 月 21 日、私はこの日、6 月 13 日の漢検に向け勉強を始めました。

私は、小学生の頃から漢字が苦手で、中学生になって、漢字の勉強を強制されなくなってからは、全く漢字の勉強をしませんでした。そんなこともあってか、漢検の過去問をテスト形式でやってみると、200 点中 100 点未満でした。私は、ずっと漢字の勉強はしていなかったけど、ここまで出来ていないとは、全く思っていなかったので、とても衝撃を受けました。

その結果がとても悔しかった私は、まず 13 回分ある過去問を全て、答えを見ながら赤ペンで、解答用紙に写しました。その後、もう一度テストをしてみましたが、どれも 120 点台と、合格ラインの 7 割、140 点にはまだまだ足りない数字でした。全く点数を取れず、少し悲しくなりましたが、最初の点数を考えると、30 点近く上がっていたので、私は、漢検の勉強がとても楽しくなりました。

しかし、その後もう一度テストをしてみても、点数はそんなに上がらず、このままでは合格できないと思いました。私は、頑張って勉強しているのに、不合格になるのだけは嫌だったので、何度も何度も過去問をくり返しテストし、丸つけし、直しをしました。すると、いつの間にか、160 点台の点数を出せるようになりました。

その理由として、問題を覚えたからという理由もあるのですが、もう一つの理由があります。漢検は過去問に出した漢字や熟語を同じ問題では使わないのですが、違う問題では使うので、そのよく出る漢字や熟語を全て暗記したからです。そのおかげで、前日のテストでは、190 点台をとれるまでに成長していました。

万全の状態で漢検に挑んだ私は、本番で 160 点をとることが出来ました。私は、この漢検のこともあってか、勉強は大切だと改めて思いました。**●ミクさん（中 3）からの VOICE■（“三冠達成”次号につづく）**

＜＜石川塾の遠足＞＞

10/24（土）　遠足の体験記

小田急片瀬江ノ島駅９時集合～片瀬海岸～七里ガ浜～稲村ケ崎（砂鉄集め）～（戻り）江ノ島駅

◆10 月の遠足が雨で中止になり、待ちに待った 11 月の江の島遠足。幼稚園の仲良し家族に声を掛け、総勢 22 名で参加しました。みんな楽しみ過ぎて、前日の夜は子ども達は早寝。大人は、緊張で中々寝付けませんでした(笑)。当日は秋晴れの気持ちいい遠足日和。子ども達は歩く気満々です。運動不足気味の大人達は不安に駆られながら出発しました。子ども達は塾長の後を一列になってついて行き、大人達を置いてぐんぐんと歩いて行きます。途中、亀や蟹、タヌキに遭遇し大興奮。あっという間に洞窟に到着しました！！真っ暗な洞窟と龍に、またまた大興奮の子ども達。11 時前なのにみんな「お腹空いた～！！」と。30 分のお昼休憩を取り、いざ、お目当ての浜歩きへ向かいました。江の島の海は、今までに見たことのない美しさで、大人達は感動していました。子ども達は波に…貝殻拾いに…と夢中になり、止める間もなくみんなびしょ濡れ。五感を思いきり使って遊ぶ子ども達は本当に楽しそうで、終始笑顔で駆け回っていました。大人達はトレーニング並みのきつい砂浜歩きにどんどん体力を奪われ、稲村ケ崎まで来て塾長に Give up を申し出(笑)。稲村ケ崎での休憩中も砂鉄採取や芝生の上を転がり回る子ども達。こんなに体力があるんだなぁと感心したのと同時に、家族だけではきっとここまで出来なかったので、この機会を作って下さった塾長に改めて感謝しました。解散の時に塾長からお土産の問題を出され、帰りの電車でひたすら考える理系パパ達。疲れて何も考えられないママ達と一部のパパ。最寄り駅に着くまで、本当に盛沢山の楽しい 1 日でした。万歩計を見ると、14 キロ 2 万歩を歩いていました。翌日、疲れは残るものの、みんな清々しい疲れだね～と。そして、とっても楽しかったので、また参加したいとの声が続々上がっていました。

　引率して下さった塾長と後ろからサポートして下さった塾生(飯田光太朗くん小 3)のお父様に、心から感謝いたします。**●タイセイ君（年長）のお母さんからの VOICE■**

◆今回、家族で初めて遠足に参加させていただきました。親子共々普段から長距離を歩く機会がなく、最後までついていけるかと、行く前は不安のほうが大きかったのですが、何とか最後まで皆さんと一緒に歩く事が出来ました。1 歳半の次女を抱えての長い行程は楽なものではありませんでしたが、娘をはじめ、子ども達からたくさんのパワーをもらいながら、そして大人同士もお喋りを楽しみながら歩くことが出来ました。特に砂浜を波と戯れながら歩き進むときの子ども達のキラキラした表情は、子どもらしさ全開とでも言うのでしょうか、我が子に関してはあのような顔を初めて見たような気がします。翌日に「また遠足に行きたい」と言ってきた娘。歩ききったことで一つ何か自信を持てたような感じに見受けられました。私についても同じく、とりあえずやってみようと珍しく奮起した結果、大きな大きな収穫を得られように思います。是非ともまたチャレンジしたいです。

　石川先生、そして飯田さん、また今回ご一緒させていただいた皆さま、本当にありがとうございました。

●ノノカさん（年長）のお母さんからの VOICE■

11/29（日）　遠足の体験記

9 時 JR 逗子駅集合～逗子海岸（桜貝）～鎧摺港（おやつ）～逗子海岸～披露山（小さな動物園・昼食）～小坪～鎌倉材木座海岸～鎌倉駅（まめや）

◆先月に引き続き、今回も家族 3 人で参加しました。初めての逗子。お洒落なイメージの逗子を散策とあって、母はひとりワクワクしておりました。子ども達は前回同様テンション MAX。みんなと一緒だと歩くだけでも楽しいようです。駅から逗子海岸までの道中、昔ながらの八百屋があり、美味しそうなお野菜が沢山並んでいました。買いたい衝動を何とか抑え、「また来ます！！」と立ち去りました。海岸に着くと、子ども達は無心に貝殻拾い。みんな各々のお気に入りの貝を見つけては、見せあいっこをしていました。その後、披露山公園まではひたすら歩く！！しかし、途中、またまた新鮮な魚屋があったり、美味しそうな定食屋があったり、お洒落なカフェに有名なレストラン、もう誘惑満載。また、必ず来よう！！と密かに誓う母でありました(笑)。今回は前回よりも沢山歩いた上に、山道ものぼったので、息子も「疲れた～」を連発。しかし、年中のお友達がペースを崩さず黙々と歩く姿に、ギブアップはできなかったようです。男の子の闘争心

がこんなところで役立ちました。無事鎌倉駅に着く頃には万歩計が 25000 歩に！！子どもも大人も本当によく頑張りました。とっても疲れたけれど、今回も清々しい疲れでした。お忙しい中、引率してくださった石川塾長、みつき先生、本当にありがとうございました。**■タイセイ君（年長）のお母さんからの VOICE■**

◆前回の江ノ島方面の遠足から１ヶ月程経ち、今回２回目の遠足に参加してきました。今回は主人が参加出来ず、年長と１歳７ヶ月の娘、そして私の３人での参加となりました。前回初参加をした際に、服装、持ち物など、色々と反省点があったので、今回はそれを生かし、動きやすい格好で、そして持ち物もコンパクトにして挑みました。私も娘たちも鎌倉・逗子方面に行くのは初めてだったので、前日は子ども達と一緒にワクワクして早々と寝て本番に備えました。おかげで当日は早起き出来ました。乗り換えを数回経て逗子駅に到着。石川塾長、そして光樹先生に無事出会えて一安心。私は初めましての逗子、鎌倉に気持ちも高まりエイエイオーの掛け声と共に出発。最初の亀岡八幡宮で親子共に参拝の際にお賽銭箱に小銭が入らないというハプニングがありましたが…その後逗子海岸で娘の念願だった貝拾い。キレイな貝殻がそこら中に広がっていて親子共に大興奮でした。ずっと抱っこしていた妹も、砂浜に解き放ってあげたら大喜び。とにかく波の音のする方に行きたがり、必死で阻止しながらで母は疲れました。その後は鐙摺の不整合を見学し、ヨット発祥の地、葉山港（鐙摺港）でしばし休憩。子どもも大人もおやつで元気チャージ。再びお昼休憩の披露山を目指して歩きました。海岸を出て、土屋花情の「さくら貝の歌」の歌碑を見ていざ披露山へ。先頭集団はだいぶ先に見えており、スローペースの私たちはいつも追いかける形に。途中少し険しい道もありましたが、先頭集団からの「あとちょっとだよー！」の声を聞いて再び奮起。30 分ちょっとかかって披露山公園へ到着。娘は念願のお昼ご飯。歩くと相当お腹が空くようで、途中から口数も減り、元気がなくなってきていたので心配していましたが、お昼ご飯を食べるとみるみる元気になり、「いっぱい歩いた後のご飯は美味しいね～」とご満悦。元気に下山をスタートさせる事が出来ました。間も無く目の前に広がったのは、ビバリーヒルズと言われるらしい高級住宅地。電線も地中に埋められているらしく、一軒一軒のお家がお洒落でダイナミックで大変目の保養になりました。子ども達にはこの凄さが分かったかな？高級住宅地を抜けて、天照大神社を参拝し、長い階段を手摺りに捕まりながら下りました。かなり怖かったです。小坪漁港に出て、お次はまたリゾート感あふれるリビエラ逗子マリーナが見えてきました。お洒落な結婚式場などもあるそうで、こちらも大変目の保養になりました。ここで娘がトイレに行きたがり、近くの公衆トイレに連れて行ってもらうも使用できず、皆さんにトイレを探していただきました。コミュニティセンターを見つけていただき、無事に事を済ませることが出来ました。足止めさせてしまって申し訳なかったです。それから材木座海岸で再び貝拾い。疲れていても海を見ると元気になる子ども達。元気な子ども達の笑顔に大人も元気を分けてもらい、最後のひとふんばり。鎌倉駅に着いたのが 15 時頃でした。鎌倉駅の「鎌倉まめや」さんで塾長オススメのお豆をお土産に購入し、ここで塾長と光樹先生ファミリーとお別れ。乗換えの大船駅で晩ご飯のお弁当を購入し、16 時前に相模大野に無事到着しました。今回も次女を抱っこで参加だったので、皆さんには私の重いリュックを交代で持っていただいたり（娘のリュックまで）、常にお気遣いいただき本当に感謝の言葉しかありません。ありがとうございました。長い道中、素敵な景色を見ながらのおしゃべりはとても楽しく、子ども達もみんな笑顔で、最高に充実した時間となりました。次回は２月を予定されているとのこと。体力をつけて是非また参加したいと思います。塾長、光樹先生、保護者の皆さまありがとうございました。**■ノノカさん（年長）のお母さんからの VOICE■**

◆今回外部から２回目の参加をさせていただきました。娘はきれいな貝をたくさん見つけて、創作意欲が沸いてきたようで興奮していました。１回目よりも歩く距離も長く、休憩も短かったにもかかわらず娘は最後まで楽しく歩き切ることができて、前回の経験が自信となって歩くことを自然と楽しいと感じているようでした。前回は娘が私のそばを離れず歩いていましたが、今回は１人でもどんどん歩いて坂道を登って行く姿を見て成長を感じました。石川先生、みつき先生、塾生の皆様お世話になりありがとうございました。
■ハナさん（年長）のお母さんからの VOICE■

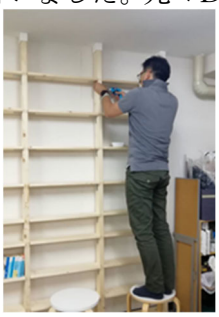
＜＜DIY ワークショップ＞＞

石川塾の本棚づくりワークショップ全３回(2020 年 11 月 7 日 土/2021 年 2 月 11 日 木/2021 年 2 月 27 日 土)のご感想をいただきました。DIY マスターの宮井さんを中心に計 6 家族で石川塾の本棚を作成♡子どもたちは自分専用の卓上本棚を作りました♡どの本棚も素敵に仕上がり、来塾の方たちもその完成度にビックリされています。これが刺激となってお家に本棚を作ってみよう♡と思って下さるご家庭が増えています♡ありがとうございました♡

□ふた家族で本棚づくり（2020 年 11 月 7 日 土曜日 石川塾）

塾長から突然本棚作成の依頼

先日遠足の際に、塾長から突然本棚作成の依頼を受けました。(笑)遠足の楽しさで気持ちも高揚していたので、喜んで～！！と夫婦で軽くお返事をしたものの…改めて教室を眺めてみると、あまりに沢山の本があって眩暈がしました。塾長からはとりあえず１つの本棚を作成してほしいとの事。ほっと胸をなでおろし、夫と塾長で色々打ち合わせを行いました。元々DIY が好きな夫。家の本棚や洋服ラック、デッドスペースにタオル置き場などを全て手作り。実は、家の中にブランコまであるのです。



秋晴れの気持ちいい土曜日の午後、作業を開始しました。塾友の古瀬ファミリーに援軍を頼み、大人４人と子ども２人での DIY。１名を除きほぼ初心者。最初は上手くできず凹みましたが、作業が進むうちに段々と腕も上がり、みんなでワイワイ行う作業がとても楽しかったす。ばらばらだった木が組み合わさって素敵な本棚に完成した時は、達成感とともに充実感でいっぱいになりました。手作りの醍醐味ですね。苦手意識の強かった DIY。ちょっとはまりそうです。

●タイセイ君（年長）のお母さんからの VOICE■

□DIY わが家の本棚づくり雑感

父親目線

壁一面、天井まで広がる本棚へのあこがれ、私が小さなころからどこかで感じるあこがれの１つだ。いまではもうその大半が処分されてしまったが、実家には、両親が買いためてきた画集や書籍が本棚いっぱいに整列して壁一面に広がっていた。そんな環境で育ったから、どことなく同じような景色に心地よさを憶えるのかもしれない。

偶然のきっかけから昨年、石川塾で本棚づくりのお手伝いをすることになった。デザインを考え、材料を買って、作る一連の過程の楽しさと、自分が思い描いた本棚を作れることに魅力を感じた。本棚を作ってみようという気持ちに火が付き、長男（５歳）が絵本やおもちゃを収納できる本棚作りが始まった。何段の棚にするかという構想から、木材の種類や棚の幅や厚み…考えるとキリはない。インターネットを使って本棚の DIY 情報を参考にしつつ、まずは簡単に、たくさん本やおもちゃが置けるものとして、石川塾で作ったものと同じ、突っ張り棒方式の天井までの本棚を作ることにした。長男（５歳）も自分の本棚作りとなると、俄然やる気が出る。あれを置きたい、これを置きたいという気持ちが高ぶっているようだった。こうゆう本棚が欲しいと自分なりに設計図を書いていたのには驚いた。木材へのニス塗りや、やすり掛け、電動工具を使ってのねじ止めなど、積極的に付き合ってくれる。ホームセンターでの木材購入やニス塗り、組み立てなど、何日かに分けながら、少しずつ進めてようやく完成！

完成と同時に、長男はさっそく自分の玩具や本を棚に並べていく。レゴブロックは本棚の下の段へ、最近お気に入りの「チムとゆうかんなせんちょうさん」シリーズや大好きな電車関係の本は一番取りやすい段へと、

彼なりの基準で迷いなく並べ、あっという間に本棚はいっぱいになった。細かいところを見れば、改善する点はいくつもみつかる。初めての本棚作りにしては大満足の出来映えだ。いつの間にか長男のための本棚作りが、自分が一番楽しんだ、自分本位の本棚作りになったような気もするが、細かいことはよしとしよう。長男はこれから身長が伸びて、よく使う棚はどんどん上に上がっていくだろう。お気に入りの本も変わっていくだろう。これからどんな本が本棚に置かれるのか、長男の成長とともに変わっていく本棚の景色を見るのもまた楽しみだ。完成した本棚：一番上の段には、幼稚園の作品展で作成した小田急線の電車模型が置かれている。(長男の宝物の１つ)

●バンリ君（年中）のお父さんからの VOICE■

□親子で想像以上にワクワクしての参加（2021 年 2 月 11 日 木曜日 石川塾）

ワークショップを受けながら思っていたこと

２月 11 日にワークショップに参加しました。本棚作りは、母とやるのかと思っていました。しかし着いた時に分かれて別のものを作ると言っていたので、勘違していたことに気が付きました。本棚作りの順番は、イメージを書く→寸法を測る→木材を切る→L 字隅金具、三方面隅金具で固定する→色つけ仕上げの順番で組み立てましたが、まさかの三方面隅金具で留める時に釘の向きが斜めになってしまい、他の釘とぶつかるというトラブルが起きて、１０分くらい釘を入れることができませんでした。そこで穴を開けて釘を入れてみたらな

ぜか、釘と釘がぶつからずに入りました。このワークショップを受けて本棚を作ったおかげで、今ではもう本などを置く場所には困ることはありません。最後にこのワークショップを受けながら思っていたことは、僕の母国について、何かできたらいいなという話が母との間で出ていたので、コロナが収束したらメキシコ料理やピニャータ（中にお菓子やおもちゃなどを詰めた紙製のくす玉人形のこと）などについてのワークショップができたらいいなと思いました。**●ナオキ君（小 5）からの VOICE■**

棚板にＬ字金具を取り付ける、柱を立てる、棚板を柱に取り付ける、の3つの工程の作業

石川塾の棚づくりワークショップに参加しました。コロナ渦のこの一年、親子でイベントやワークショップに参加する機会がほとんどなかったこともあって、開催日が近づくにつれ、想像以上にワクワクしての参加となりました。

“親の部”の本棚作成は、柱の上下にディアウォールというバネの入った部品を取り付けて固定することにより、壁に傷をつけることなく棚が設置できるという方法によるもので、DIY 特集で見かけたことのある工法でしたが実際に作成するのは初めてでした。棚板にＬ字金具を取り付ける、柱を立てる、棚板を柱に取り付ける、の３つの工程の作業をしましたが、金具が水平についていない、ネジがゆるいなどの原因で最後に調整が必要になったり、きちんと採寸をしているのに設置場所が多少ずれてしまったりしました。今回は、もともとあった本棚の棚をリサイクルして使用したため、この棚の奥行きに対して、柱の奥行きの方が小さく、ちゃんと棚板の中央に印を付けて柱に取り付けたにもかかわらず、完成した棚板の位置が手前に出過ぎていたり、引っ込みすぎているという状態になりました。それを調整する作業が一番大変だったと思うのですが、宮井先生ご夫妻が率先してあっという間に調整して下さいました。やはり慣れていて経験があると違うな、と実感しました。

私は「棚の作成」のみの参加だったので楽しく体験できましたが、元の本棚の分解、朝早くからの買い出し、本の出し入れなど、下準備はとても大変な作業だったと思います。楽しいワークショップになるようご準備いただいた皆様、ありがとうございました。我が家で棚が必要になった際には、改めてご相談させて頂きます。
●ナオキ君（小 5）のお母さんからの VOICE■

□娘の、ブックスタンド作りたい!!という思いから（2021 年 2 月 27 日　土曜日　石川塾）

世界に一つだけのブックスタンド

自分ひとりで、自分だけの、世界に一つだけのブックスタンドを作る。それが嬉しくて、ワクワクしながら参加しました。細かい作業は得意だけど、ネジでとめるのが難しくて大変でした。体重のかけ方を学びました。一緒に参加したこうたろうくんは、さらさら作業してて、すごいできてて、男らしかったです。私はデザインにこだわりました。金具がオシャレで気に入っています。作り終えたあとのお茶会も楽しかったです。**●ミユさん（小 3）からの VOICE■**

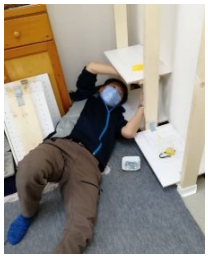
今まで考えたこともなかった新しい発見

家具の組み立てくらいしかやったことのない私ですが、娘の、ブックスタンド作りたい!!という思いから参加させていただきました。壁面収納の、壁を傷つけないで本棚(靴箱、コート掛けなど)ができるなんて、今まで考えたこともなかったので、新しい発見でした。シンプルでとてもわかりやすいので、この本棚は知らなきゃ損です。寸法を計って、材料を揃えることさえクリアできれば(←コレが大変なのですが)、我が家にも採用したいと思います。あまりお役に立てませんでしたが、感動させていただきました。ありがとうございました。**●ミユさん（小 3）のお母さんからの VOICE■**

□DIY 好きの私も楽しみながら…（2021 年 2 月 27 日　土曜日　石川塾）

大人は壁面棚づくり、子どもは卓上本棚づくりの楽しい時間

小３の光太朗と一緒にワークショップに参加しました。子どもは自宅用の卓上本立て作り。大人は教室の壁面本棚づくり。光太朗は、みつき先生の指導で自分の好きな大きさの本立てを作りました。初めて電動ドライバーを使いましたが、本人いわく「電動ドライバーは思ったより簡単に使えて楽しかった。」とのこと。良い経験が出来ました。一方、大人は４人で教室の壁面棚づくり。私は DIY が好きなので、とても楽しみながら作業が出来ました。狭いところのネジ締めは、寝転んだり体をひねったり厳しい体勢での作業となりましたが、何とか完成してよかったです。終わった後は皆でお茶を飲みながらおしゃべりも出来て楽しい一日になりました。卓上本立て作成の指導をしていただいたみつき先生、壁面本棚の図面作成・材料や道具の準備などの大変な事前の段取りをして頂いた宮井さんご夫妻に感謝いたします。ありがとうございました。**●コウタロウ君（小 3）のお父さんからの VOICE■**



アンとアナのものがたり(成長日記)

☆アン（3 年生）：もうすぐ 4 年生♡英検チャレンジは続く♡専科講座にもチャレンジ♡

【漢字検定は 7 級に合格♡算数検定 8 級チャレンジ♡英検 3 級は 6 月にリベンジ♡】

英検 3 級リベンジ劇…は次の 6 月に繰り越し。テキストは前回英会話教室の先生と相談して決めたものを使用。ライティングの練習は塾オリジナルテキストで反復練習。6 月までに何巡同じテキストを解けるか…。漢字検定7級は見事合格。1 学年上の級なので、一通り漢字を練習し、1 巡目の過去問は答えを写して解かせ、2 巡目からテスト形式で…6 巡繰り返し過去問を解いた。試験当日、「分からないと思うものは無かったけど、迷った問題が 2 つあった…けど、最後までずっとずっと考えてほんとに残り 5 分くらいの時に思い出したのがある（笑）絶対受かってると思う♡」と自信満々。3/1 見事合格の知らせ。漢字検定後あとは算数検定対策に集中。1学年先取り学習を取り入れ、その学習の成果をみる。面積の単位変換、ha ヘクタールと a アールの変換問題が不安定。石川塾で使用している、単位換算プリントからその部分をとり出し、単位換算定規を作って解いた。試験の日の朝、もう一度単位換算を見直していた。塾の課題、『イッキに読める名作』は中学生まで進んだ。『ゼッタイこれだけ！名作』は並行して3年生まで。公文は 4 年生まで終了し、Z 会算数は 3 年生まで終了。清風堂の計算問題をくり返し解いている。順次 5 年生の学習をスタート予定。春期講習で『サピエンス全史』『単位換算』を学ぶ。学校の方は、鳴子踊りとプログラミングの授業が白熱している。毎日家でもくもくと取り組む。学習も、遊びも自分で配分を決めて取り組むように。口を出すとぶつかるので見守っている。今のところこれで問題はないようだ。もうすぐ 4 年生。高学年への入り口。どう変わっていくか楽しみ…楽しみ…。

≪写真上： 単位換算定規+単位換算プリント 小学校 1～6 年 勉強ひみつ道具 プリ具 第 1 弾/ 小学館
写真下：Z 会グレードアップ問題集 小学 4 年 算数 文章題 改訂版/Z 会≫

☆アナ（年長）：ランドセル・制服が届いてウキウキ♡もうすぐ 1 年生♡

【英検アセット 4 級合格♡算数検定 11 級合格♡6 月の漢検 10 級、英検 5 級に向けて】

くり返し過去問を解いた成果が実を結び、児童英検 4 級、算数検定 11 級に合格♡本人も、努力の成果をかみしめている。算数検定は仲良しのお友達と一緒だったこともあり、少し気持ちが大きくなり見直しをしっかりせずに終わるのを待つ姿が…いつもは間違わない時計問題を読みまちがっていた。それを伝えると「分かるやつなのに～」と悔しそうに。「次はちゃんと見直しする！」と反省。公文、清風堂、Z 会の 1 年生問題が終了し、サピックスの「きらめき思考力パズル 小学 1~3 年生 数センス入門編」を楽しんでいる。1 年生の漢字を一通り学んだので、漢検に向けそろそろ過去問に取りかかる。英語に関しては、最近スイッチが入りっぱなし。フォニックスも分かってきたようで単語も読めるようになってきた。英語検定 5 級の勉強もコツコツ一緒に頑張ろう♡もうすぐ 1 年生。ピカピカのランドセル・制服を身にまとい満面の笑み。初等部楽しみだね…。

≪きらめき思考力パズル 小学 1~3 年生 数センス入門編/サピックス小学部/主婦と生活社≫

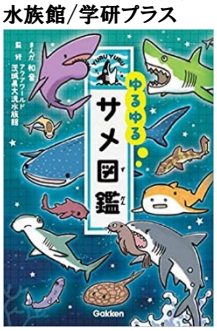
アンとアナの本棚

『源氏物語』
紫式部/講談社青い鳥文庫

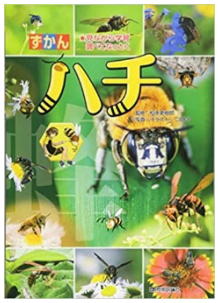
『古事記
(10 歳までに読みたい日本名作)』
那須田淳/ 学研プラス

『エルマーのぼうけん』
ルース・スタイルス・ガネット/福音館書店

『ゆるゆるサメ図鑑』
アクアワールド茨城県大洗水族館/学研プラス



『ハチ(ずかん)』
松本 吏樹郎（監修）/技術評論社



パパ日記　スイッチ

自宅で過ごす時間が長くなった今日この頃、一年前には入手困難であった"あれ"がついに我が家にもやってきた。その名はニンテンドースイッチ！これまでも子どもはずっと欲しがっていた。「だって、クラスのみんなが持っているよ」(←こういう場合のみんなはだいたい数人くらいと思われる)。そう言って誕生日やクリスマスにねだられていたものの品薄なのをいいことに逃れ続けていた。ところが品薄状態も改善してしまい、またお出かけしにくい世の中の状況も変わらないのでついに購入することになった。子どもたちは大喜び、大人はどうなることやら戦々恐々。だいぶ夢中になり今ではすっかりコントローラーを操る姿が板についてきた。ルールを作ってやっているものの大人の思い通りにはいかないのはしかたないか。家族全員で遊ぶと思ったより大人も一緒に楽しめて時にはちょっとむきになったりもしている。それにしてもファミコン、スーファミで育った自分からするとネットでつなげて友だちと一緒に遊ぶとかアンビリーバボォーです。

＜＜ミツキ先生の幼児教室＞＞

●4 歳～6 歳（年少～年長）小学校入学準備

●月曜と水曜と金曜　午後 3 時～5 時（週 3 日になりました♡）

「～読み書き算数・思考力～」基礎から丁寧に

◆石川塾では小学校に入学したときに、教科学習にスムーズに取り組めるように「かず」「りょう」「かたち」の概念が理解できるところから「すいり」まで、学習の基礎を丁寧に教えていきます。また、子どものつまずきや、理解度に合わせた指導をしていきます。※年中児かずかたち検定、年長児算数検定 11 級合格♡

～幼児クラス（就園児）の授業の内容～※親子で一緒に学ぶクラスです

◎朗読暗唱…楽しみながら、リズムよく朗読暗唱♪絵本朗読もあります♪
◎ことばの取り組み…ひらがな・カタカナの読み書きの練習、言葉遊び♪
◎かたちの取り組み…パズル、パターンブロックなどで遊びながら学びます♪
◎かず・りょうの取り組み…くりあがり・くりさがりの計算まで進み、百ます計算へ♪
◎かず・かたち検定/算数検定の取り組み…学んだことをテストで確認！
検定対策指導あり！
◎就学前の取り組み…入学前に、読み書きや計算、時計の見方・順序・前後
左右の位置などの知識を身につけます♪
◎白川静文字学に学ぶ漢字学習…正しい漢字の成り立ち、1 年生の漢字♪

●2 歳～3 歳　ホームメイド・モンテッソーリ講座

●月曜と金曜　午前 10 時～12 時

～幼児クラス（就園前）の授業のながれ～※親子で一緒に学ぶクラスです

子どもが自分から集中して何度も繰り返す行動をよく観察し、環境と指導を提供します。

◎教室にある 24 種類の教材を中心に、お子様の『敏感期』の成長を促す教材を提示♪
◎教材はご自宅でも取り組みができるよう、月に 1 度お母様と一緒に教材を作ります♪
◎教材は特に、親指・人差し指・中指の三本指を上手に使えるようになるためのものを選んでいます。お箸や、鉛筆を持つ手を、段階を踏んでつくっていきます♪

◎幼児用朗読暗唱・絵本の読み聞かせ・手遊びお歌で言葉を学びます♪
◎ちょっとしたこと、気になること…子育て相談は、いつでも歓迎♪

●「小学校受験サポート」年少から・時間はご相談ください

◎プロフィール◎
★講師：わたなべ　みつき
★2児の母（小学3年生…小学校受験　年長…幼稚園受験　女の子 2 人）
★資格：(公財)日本数学検定協会認定資格「幼児さんすうインストラクター」
ホームメイド・モンテッソーリ認定講師（2021 年 1 月取得）
★他に看護師国家資格あり　大学病院・療養型病院に勤務経験
★石川塾に6年前から親子で通塾し、石川塾長のノウハウを教わる
★石川塾にて「ワークショップ」「Weekly・Monthly」「千の声 VOICE」を担当
★子どもに教えているうちに、教えることが楽しくなり上記資格取得。現在は主に 2 歳から小学 3 年生までを担当

子どもが何かを発見した時の“ニパッ♡”わかったときの“ニコッ♡”と表情が輝く時間を体験しませんか。

生徒募集中！紹介者には謝礼あり！

体験授業は 3 回無料です。まずは授業体験を…お待ちしております。
お問合せは…TEL042－710－5768　読み書き算数　石川塾
担当：ワタナベミツキ

子ども・お母さんたちが借りて読んでいる本（2020 年 7 月～2020 年 8 月）

2020 年 7 月
とんでいったふうせんは
タンタンタンゴはパパふたり
しごとば
せかいあちこちきゅうたんけん
たねからめがでて
恐竜世界のサバイバル①
恐竜世界のサバイバル②
なぞなぞはじまるよ②
人間
巨大空港
しごとば
かいけつゾロリのドラゴンたいじ
ウォーリーをさがせ
だるまちゃんとかみなりちゃん
かぶとむしとくわがたむし
講談社カラー科学大図鑑 セミ
講談社の動く図鑑 MOVE 昆虫
またぶたのたね
スイーツ駅伝
へんしんマラソン
どろぼうがっこうぜんいんだつごく
だいぶつさまのうんどうかい
うんち しぜん
とけいのほん①
わけあって絶滅しました
かいけつゾロリのまほうつかいのでし
おしりたんてい カレーなるじけん
おしりたんてい ふめつのせっとうだん
素数ゼミの謎
マンガでわかる！10 才までに覚えたい言葉 1000
オリンピア・キュクロス①
オリンピア・キュクロス②
オリンピア・キュクロス③
からだを揺さぶる英語入門
りゆうがあります
だるまちゃんとうさぎちゃん
ドラえもんの理科おもしろ攻略
カブトムシ・クワガタムシのひみつ
学研の図鑑 恐竜
赤ちゃんはことばをどう学ぶか

2020 年 8 月
カブトムシ
大本営が震えた日
ももこの 21 世紀日記
ざんねんないきもの事典
ドラえもんの算数おもしろ攻略 続・文章題がわかる
生まれたときからせつない動物図鑑
世界のともだち フランス
あなたのいえわたしのいえ
南極のサバイバル
はじめての感染症図鑑
恐竜世界のサバイバル②
感染症キャラクター図鑑
わくわく漢検 10 級
恐竜世界のサバイバル①
理想の国語教科書
夢十夜
ドラえもんの算数おもしろ攻略 文章題がわかる
いろいろおにあそび
続 ざんねんないきもの事典
ウォーリーをさがせ
またぶたのたね
どろぼうがっこうぜんいんだつごく
かたつむりののんちゃん
ぞうくんのさんぽ
わけあって絶滅しました
生まれたときからせつない動物図鑑
海のサバイバル
世界のともだち 南アフリカ共和国
世界のともだち メキシコ
漢字なりたちブック

ぶらり石川ライぶらり

「お母さんの『敏感期』」 ～モンテッソーリ教育は子を育てる、親を育てる～

相良敦子/文藝春秋

◆「お母さんの『敏感期』」を読んで ～何に興味があるのかをしっかり観察～

年長の息子とぶつかることが増えて、子育ての壁にぶつかり悩んでいた頃、この本が目にとまりました。ぶつかる原因は、勉強をしたくない息子と、させたい私の攻防戦。イライラしながらお勉強しても楽しくないよな…と思いながら、きっちりやらせたい私の思いをぶつけてしまい、1 時間以上揉めることも多々ありました。そこで、この本を読み、自分が息子をコントロールしようとしていることに気が付きました。多くの事を吸収しようとして、こだわりの強い子どもの敏感期。親からするとイライラしてしまいますが、そこはグッと我慢し、何に興味があるのかをしっかり観察する。息子は負けず嫌いで、出来ない事や間違いを指摘されることは大嫌い。そこで、毎日のノルマを減らしひとつひとつにじっくり取り組めるようにしました。そして、誤答に×をつけずに☆マークをつける事にしました。すると、少しずつですが、自らやる気を出すようになりました。私の押し付けが、息子の興味・やる気をそいでいたのかもしれません。これからもいっぱい壁にぶつかり悩むと思いますが、そんな時はじっと息子を観察したいと思います。**●タイセイ君（年長）のお母さんからの VOICE■**

◆「お母さんの『敏感期』」を読んで ～なるほど！確かにそうかもしれない！～

この本では、成長の過程で幼児には「敏感期」と呼ばれるものがあり、それは自分を取り巻く環境から必要なものを吸収し、自分を創り上げていく時期だとのことです。この敏感期に幼児が不機嫌になる理由の多くが、何かに強い興味や関心を抱いたにも関わらず、大人の鈍感さによってその興味が断ち切られたからだとか……。

今ちょうど敏感期と思われる次女（1 歳 10 ヶ月）に当てはめて考えてみると「なるほど！確かにそうかもしれない！」と思い当たる節が次々と出てきます。

ようやく足取りもしっかりとなり、手先も上手に動かせるようになってきた次女にとっての毎日は、何もかもが気になる存在のようで、毎日同じ場所で立ち止まって遊び始めたり、同じ事を「もいっかい！」と何度も繰り返してやりたがり、洗濯物を干しているのを指差して「パパ」「ママ」「ネネ」と所有者を連呼したり、小さい子ああるのティッシュを大量に出してみたり、トイレの便器に手を突っ込んで遊んでいたり……。

これまでの私は「もう行くよ！」「何してるのー！」が第一声でしたが、この本を読んでからは「何がしたかったの？」「どうだった？」と言えるようになりました。子どもの行動そのものではなく、行動に至った経緯、つまり彼女の心がどう感じたのかを大切にしてあげたいという考えからです。とは言っても、なかなか大変です。忍耐が必要です。それでも、我が子は今敏感期なのだろうなと思うと、多少であれば不機嫌も可愛く思えるようになってきたような気もします。

先はまだ長そうですが、程よい声掛けと、忍耐強く待つ事を大事に、子育てをがんばろうと思う気にさせてくれる、そんな一冊でした。**●ノノカさん（年長）のお母さんからの VOICE■**

＜＜石川塾の肝心要　～生きていくための要旨要約～＞＞

□記述力を身につける“二千字”要旨要約（齋藤孝「使える！『徒然草』」より）

■「徒然草　第八十五段」　～真似ることで上達する～

小見出し：**素直さがなければ学べない**

本文要約：この段で、兼好はズバリ「賢い人の真似をすればいい」といっている。一つ目の段落で兼好はこういう。「人の心は素直や純粋でないから、ウソや偽善がないとは限らない。愚かな人は、たまにいる賢い人を見ると、憎しみを抱き、中傷する。こういう人は賢くなれないし、賢人の真似ができない」たしかに、たいていの人は、なかなか賢い人から学ぶことができない。それならどうしたらいいのか。兼好はこんな面白いことをいう。「狂人の真似だといって、大通りを走れば、ほんものの狂人になる。悪人の真似だといって人を殺せば、悪人である。つまり、たとえ本心でなくても、賢人の真似をしようと学べば、それは賢人といっていい」しかし、人は自分のやり方にこだわっていて素直になれないので、なかなか真似して学ぶことができない。しかし兼好は「**たとえ本心でなくても、真似すればいい**」というわけである。それを心がけていくことで、賢くなっていくというわけである。

小見出し：**型から入る**

本文要約：どんなスポーツでも練習は型を真似ることからはじまる。でも、最初のうちはなぜその型をやるかわからない。だから、素直にその型を何度もできる人は、型が身に付く。例えば、空手や剣道で型の練習をするが、やる意味がわからない。しかし、試合をしてみると型が身についていれば自然と体が動く。そうなって型の大切さがわかり、自分がやっていたことの意味がわかる。禅にしてもまずは坐禅を組んでいても「脚が痛い」などの雑念ばかり湧くだろう。でも見せかけであっても達磨大師の真似をして形だけでも坐り続ければだんだん悟りが体感されるようになる。**型、外見から真似をして入るというのは、どんな道にも適用できる技である。**

第八十五段：偽りても賢を学ばんを、賢といふべし。

[意味]たとえ本心でなくても、賢人を真似しようと学べば、それは賢人といっていい。●リョウゴ君（中 2）の要旨要約■

□記述力を身につける 20＋200 字要旨要約文（齋藤孝『理想の国語教科書』青版/赤版/緑版より）

■藤原てい「流れる星は生きている」白い十字架

一文要約：**正広がジフテリアにかかるも、医師の血清によって救われる話。**

本文抜書：痛いとかしきりに私にうったえている。私は救世病院へかけつけた。「ジフテリアですね」「すぐ血清の用意をして下さい」血清を打ち終った医師は、「もう大丈夫ですよ、奥さん」「私がこの時計を千円で戴きます」「僕が負担するっていっているんですよ」「希望を失わないで、日本へ帰るまで頑張りなさい」と静かな声で送ってくれた。もう一度振り返って、静かに頭を下げた。正広は必ず治るという自信が私にははっきりして来た。

●ユウキ君（中 6）の要旨要約■

■エッカーマン「ゲーテとの対話」

一文要約：**ゲーテが大勢の人と接し自分の意志とそれを自分のものにすることを大事だという話。**

本文抜書：大事なことは、すぐれた意志をもっているかどうか、そしてそれを成就するだけの技能と忍耐力をもっているかどうかだよ。彼は、多数の卓越した力ある人たちにとりかこまれ、彼らを自ら炎で焼きつらぬき、自らの高次な目的のために働かせたのだな。そうして、彼が他人と一緒に、また他人の力によって活動することを心得ていたという、まさにそのことが彼の天才であり、彼の独創性であり、また彼の偉大なところだったのだ。

●ミオさん（中 2）の要旨要約■

■岡本かの子「太郎への手紙」

一文要約：**岡本太郎の母が息子に対して芸術についての努力の大切さを語っている話。**

本文抜書：あなたやっぱり絵かきになさい。画と定めて今から専念なさい。同じ芸術をやっている以上迷いの苦しみがよく分かれば分かるほど、こちらも聞きながら苦しい。製作の発表場所を与えられれば迷いながらも一つの仕事を完成する、また次の計劃がその仕事を土台にして生まれる。そしている内にともかく道程をつくる。無に無が次いでついにつみ上ぐべき土台の石一つも積むことは出来ない。

●ヨシマサ君（中 2）の要旨要約■

■中島敦「名人伝」

一文要約：**名人になろうとした紀昌が弟子入りした師の飛衛めがけて弓をいったが相打ちになり仲直りした話。**

本文抜書：紀昌という男が、天下第一の弓の名人になろうと志を立てた。飛衛は新入の門人に、瞬きせざることを学べと命じた。彼は絶えて瞬くことがなくなった。次には、見ることを学べ。或日ふと気が付くと窓の虱が馬のような大きさに見えていた。飛衛は胸を打ち、初めて「出かしたぞ」と褒めた。たまたま向うから来る飛衛に出遇った。二人互いに射た。矢はその度にして相当り、敵に対する憎しみをすっかり忘れさせ、野原の真中に相抱いた。

●シンペイ君（小 4）の要旨要約■

■中島敦「名人伝」

一文要約：**紀昌が天下第一の弓の名人になろうと、師の飛衛を殺そうとし、相打ちになり仲直りする話。**

本文抜書：紀昌が、天下第一の弓の名人になろうと飛衛をたずねた。基礎訓練に五年もかけた甲斐があって腕前の上達は速い。紀昌は、師から学び取るものも無くなったと考え、天下第一の名人となるため、飛衛を除かねばと、たまたま向うから歩み来たる飛衛に狙いをつけ、その気配を察して飛衛も弓を執る。互いに射れば、矢は相当った。紀昌の慚愧の念と飛衛の満足とが、敵に対する憎しみを忘れさせた。二人は駈寄ると、野原の真中に相抱いた。

●ミクさん（中 3）の要旨要約■

＜＜読み書き算数　石川塾　からの VOICE＞＞

◆わかる・できる・喜ぶ・国語教室/読むということ/書くということ/國語専科◆

むずかしいことをやさしく/やさしいことをふかく/ふかいことをたのしく

●＜だれでも＞小学生から大人までいつでも学べます●

興味のあるものからどんどん下調べ♡漫画だから読みやすく、おもしろい♡自分の自信を持てる得意分野を作りたい♡

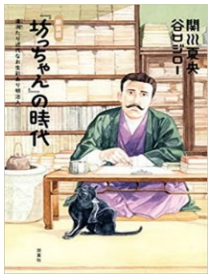
さらに深く知るために、原典を読んで、論旨を理解する力をつける♡

■＜歴史＞漫画で下調べノート作成♡

●『漫画　サピエンス全史　人類の誕生編』(全4巻予定)
ユヴァル・ノア・ハラリ/ダヴィッド・ヴァンデルムーレン
/ダニエル・カザナヴ/安原和見（翻訳)/河出書房新社

●『プリニウス』(全10巻)ヤマザキマリ/とり・みき/新潮社

●『「坊っちゃん」の時代』(全5巻)関川夏央/谷口ジロー/双葉社



■＜学究＞原典を読む力・理解する力♡

●ジャレド・ダイアモンド:『人間の性はなぜ奇妙に進化したのか』(草思社)/『銃・病原菌・鉄(上下)』(草思社)/『文明崩壊(上下)』(草思社)/『昨日までの世界(上下)』(日本経済新聞社)/『危機と人類(上下)』(日本経済新聞社)ほか

●ドナルド・キーン:『ドナルド・キーン著作集』(全15巻/新潮社)/1.日本の文学 2.百代の過客/3.続　百代の過客―日記にみる日本人/4.思い出の作家たち/5.日本人の戦争/6.能・文楽・歌舞伎/7.足利義政と銀閣寺/8.碧い眼の太郎冠者/9. 世界のなかの日本文化/10.自叙伝　決定版/11.日本人の西洋発見/12.明治天皇(上)/13.明治天皇(中)14.明治天皇(下)/15.正岡子規　石川啄木

●ピーター・ドラッカー:『ドラッカー名著集』(全15巻/ダイヤモンド社)/1.経営者の条件/2.現代の経営(上)/3.現代の経営(下)/4.非営利組織の経営/5.イノベーションと企業家精神/6.創造する経営者/7.断絶の時代/8.ポスト資本主義社会/9.「経済人」の終わり/10.産業人の未来/11.企業とは何か/12.傍観者の時代/13.マネジメント(上)―課題、責任、実践/14.マネジメント(中)―課題、責任、実践/15.マネジメント(下)―課題、責任、実践

□塾の遠足「ききたい」「たずねたい」「参加したい」(いつでもなんでも気軽にコール/☏042－710－5768)

●わが子と遊ぶ/わが子と歩む/わが子の歩み/わが子に学ぶ/鎌倉逗子葉山海浜を歩き土の道を歩く/塾の遠足はほぼ毎月/**家族友だち知人どなたでも参加できます**/2歳からの読み書き算数塾・大人のための石川ゼミ/本がいっぱいの教室/夢中な本/午前・午後・夜間いつでもお越しください/お友達の写真はホームページでご覧になれます■「町田　読み書き算数塾　石川ゼミ」検索■

●スタッフ・浅沼花音からの VOICE●石川塾でスタッフとして働いてから 5 ヶ月が経ち、ようやく生徒たちとのコミュニケーションが取れるようになってきました。4 月からは生徒たちも学年が上がるので勉強への不安があると思いますが、生徒たちの学習進度に寄り添い「わからない」を「わかる」にし「できる」ということを実感出来るように丁寧にサポートして行きます！(上掲写真右)

●編集長・渡邊光樹からの VOICE●あらゆるジャンルの本を精読してきた福岡ハカセの本棚から、生物学者になるという夢を抱くきっかけとなった『ドリトル先生航海記』へ。洞窟に閉じ込められたロング・アローの救出劇に一役買ったカブトムシからツチハンミョウへ。画家フェルメールと、顕微鏡を作ったアントニ・ファン・レーウェンフックから胃カメラへ…石川塾長推薦の本の旅をお楽しみください/“世界のともだち”は宮井京実さんが要約してくださいました/そのほか“千の声 VOICE”発行にあたり塾生、保護者の方々からたくさんの原稿をいただいており皆様に心より感謝申し上げます。

□週刊でホームページの「new 体験学習ガイド」欄に(俳句と写真■写真:kumi■/幼児教室/石川ゼミ)を掲載しています

●編集兼発行人・石川剛からの VOICE●貝のことばの謎が解け貝と話すことができたドリトル先生/大ガラス海カタツムリの殻の中に入り海底を旅してわが町パドルビーに戻る「ドリトル先生航海記」/井伏鱒二訳の初版が 1960 年/福岡伸一の訳が半世紀後の 2014 年/福岡ハカセはあとがきでドリトル先生の「公平さ（フェアネス）」に触れて/ドリトル先生を井伏が「わし」と福岡が「わたし」と訳したことで登場者(動物生物・人)に対し公平さと礼儀正しさが溢れ出ています■

□石川塾長に「ききたい」「たずねたい」「参加したい」(いつでもなんでも気軽にコール/☏042－710－5768)

□＜2021 年　春号「千の声 VOICE」第 12 号＞令和 3 年 3 月 25 日発行■HP「千の声ボイス」にバックナンバーを掲載

■〒194－0021　町田市中町1-30-8　菅井町田ビル2F/町高通り・税務署近く■☏042－710－5768